



# G7 仙台

G7 Science and Technology Ministers' meeting in Sendai, May 12th-14th, 2023

## 科学技術大臣会合

 2023年5月12日(金) → 14日(日)

---

### 活動報告書

---





2023 G7 仙台科学技術大臣会合  
推進協力委員会 会長

## 郡 和子

(仙台市長)

2023年5月12日から14日までの3日間、仙台の秋保地区を会場に開催されたG7仙台科学技術大臣会合は、関係機関や市民の皆様のご理解とご協力により、大きな成果を上げ無事終了いたしました。

会合では、信頼に基づく、オープンで発展性のある研究エコシステムの実現をテーマとして、科学研究の自由と包摂性の尊重とオープンサイエンスの推進、研究セキュリティ・研究インテグリティの取り組みによる信頼できる科学研究の推進、気候変動など地球規模課題の解決に向けた科学技術国際協力等についてハイレベルな議論がなされ、これらの成果は広島サミットへと引き継がれたところです。

当推進協力委員会は、2022年9月に本市での会合開催が決定されたことを受け、同会合の成功に向けて、2022年10月に官民一体となり設立されました。以降、円滑な会合開催に向けた支援のほか、本市の科学技術を活かした取り組みや東日本大震災からの復興に関する情報発信、イベントやSNS等を通じた周知広報など準備を進めてまいりました。

会合期間中には、G7各国の代表団が被災地沿岸部を直接訪れる公式視察を実現し、東日本大震災から12年が経過した仙台・東北のこれまでの復興のあゆみを発信するとともに、世界からいただいた支援への感謝をお伝えしました。また、次世代放射光施設NanoTerasuにも直接訪れたほか、会場内で東北の技術展示をご覧いただきました。

そして、「アキウナイト」と銘打った歓迎行事には、各国の大臣を含めた多くの皆様にご参加いただき、仙台・東北の食やお酒のほか、仙台すずめ踊りやユネスコ無形文化遺産である秋保の田植踊などもご披露いたしました。大臣や各国代表団の皆様には、すずめ踊りを一緒に踊っていただくなど大変和やかなひとときを過ごすことができました。

本市といたしましても、2015年の国連防災世界会議や2016年のG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議に続く、今回のG7科学技術大臣会合という、ハイレベルな国際会議の開催支援のノウハウを積み重ねることで、国内外からの投資や科学技術をテーマとした学会の誘致などにつなげ、地域経済の発展とグローバルMICE都市としてのさらなる飛躍を目指してまいります。協力委員の皆様におかれましては、引き続きお力添えを賜れますと幸いに存じます。

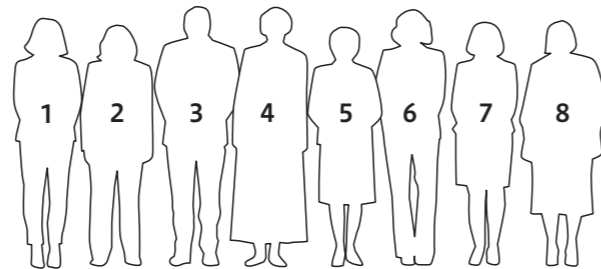
結びに、会合開催にあたり、ご協力をいただきました内閣府の皆様をはじめ、様々な心遣いをもって準備・対応いただいた秋保地区の皆様、語学ボランティアの皆様、警備や医療、防災、ライフライン等あらゆる分野にてご対応いただいた皆様、各種関連イベントにご参加いただいた市民の皆様、その他ご協力いただいた全ての皆様に心より感謝を申し上げます。

ご挨拶	1	■アキウナイト	36
写真ダイジェスト	4	■会合参加者への記念品	38
1. G7 公式写真撮影	4	■プレス向けエクスカージョンバスツアー	39
2. 本体会合	5	■会合参加者・登録プレスへの PR ■仙台駅での東北の魅力発信	40
3. G7 関連事業（公式エクスカージョン）	6	■第 40 回全国都市緑化仙台フェアとの連携事業（秋保地区花壇整備、G7 花壇）	41
4. G7 関連事業（技術展示・PR ブース・デモンストレーションブース）	8	■民間事業者等との連携事業	41
5. G7 関連事業（プレス向けエクスカージョンバスツアー）	10	5 開催機運の醸成（市民向けイベント／展示）	42
6. G7 歓迎事業（アキウナイト）	11	■ G7 仙台科学技術大臣会合 開催 100 日前記念シンポジウム	42
7. G7 歓迎事業（語学ボランティアの活動）	13	■ G7 参加国の魅力発信セミナー・パネル展示	43
8. G7 歓迎事業（歓迎装飾・広報掲示物等）	14	■ G7 仙台科学技術大臣会合 開催 1 カ月前記念イベント	44
9. G7 歓迎事業（記念品・PR グッズ等）	15	■ G7 仙台科学技術大臣会合 開催 30 日前記念講演「科学技術を読み解く力」	44
10. G7 歓迎事業（取材・警備）	16	■ G7 仙台科学技術大臣会合 機運醸成セミナー「古きを学び、新しさを考える」	45
11. 開催機運醸成事業（関連イベント）	17	■ G7 給食	45
12. 開催機運醸成事業（おもてなし研修）	18	■子ども向けデジタルリーフレット ■ G7 図書展示 ■巡回パネル展示	46
第 1 章 G7 仙台科学技術大臣会合の概要	19	6 歓迎・情報発信・PR	47
1. G7 科学技術大臣会合とは	20	■懸垂幕・吊看板の掲出 ■カウントダウンボード設置	47
2. 会合参加者	21	■シティドレッシング	48
3. 会場図	22	■ポスター掲出、リーフレット配布各種、PR グッズ	49
第 2 章 推進協の取り組み	23	■ウェブページ及び SNS による情報発信	50
1. 2023 G7 仙台科学技術大臣会合推進協力委員会とは	24	■仙台・未来創造フォーラム（首都圏シティプロモーション）ブース出展	51
■開催の記録	25	7 記事掲載	52
■事務局の組織体制	26	■Japan Times 特集記事 ■仙台市政だより	52
■推進協力委員会の予算・決算	27	8 おもてなし環境整備	53
2. 会合開催支援	28	■おもてなし環境整備 ■インバウンドおもてなし研修	53
■主催者との連絡調整 ■会場・宿泊調整 ■警備・救急・消防体制、衛生体制	28	9 警備体制等整備	54
■インフォメーションデスク設置運営 ■語学ボランティア	29	■警備・交通・ライフライン関係機関連絡会	54
■秋保地区団体・住民向け説明会	31	第 3 章 資料集	57
3. 公式エクスカージョン	32	○G7 科学技術大臣の共同声明（大臣コミュニケ）	58
■公式エクスカージョン	32	○開催までの歩み・開催後の活動	69
■車内動画	32	○効果測定の結果	71
4. 関連事業企画・運営	34	○2023 G7 仙台科学技術大臣会合推進協力委員会規約	72
■メディアセンターにおける仙台・東北 PR ■地元関係者からの歓迎	34	○庁内推進本部会議	75
■仙台市や東北の企業・大学、国立研究機関等の技術展示	35	○庁内で行った取り組み、推進協共催・後援事業一覧	77
■PR 用制作物	36	○2023 G7 広島サミット関係閣僚会合	77

1 G7公式写真撮影



- 1 マリア・クリスティーナ・ルツ  
研究・イノベーション総局国際協力局長／EU
- 2 アラティ・プラバカー  
大統領府科学技術政策局長／アメリカ
- 3 ジョージ・フリーマン  
科学・イノベーション・技術省閣外大臣／イギリス
- 4 ベッティーナ・シュターク=ヴァッツィンガー  
連邦教育研究大臣／ドイツ
- 5 高市 早苗  
内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)／日本
- 6 アンナ・マリア・ベルニーニ  
大学・研究大臣／イタリア
- 7 モナ・ネマ  
首席科学顧問／カナダ
- 8 シルヴィー・ルタイヨ  
高等教育・研究大臣／フランス



2 本体会合



会合会場(ホテル佐勘)



会合の様子(1日目)



高級実務者会合



会合の様子(2日目)



議長国記者会見



公式昼食会

3 G7関連事業(公式エクスカージョン)



震災遺構荒浜小学校教室での説明



震災遺構荒浜小学校屋上での説明



東北大学災害科学国際研究所での説明



次世代放射光施設NanoTerasuでの説明



震災遺構荒浜小学校校庭



次世代放射光施設NanoTerasu視察



東北大学災害科学国際研究所



東北大学災害科学国際研究所視察



ハイレベル会合集合写真



ハイレベル会合

4 G7関連事業(技術展示・PRブース・デモンストレーションブース)



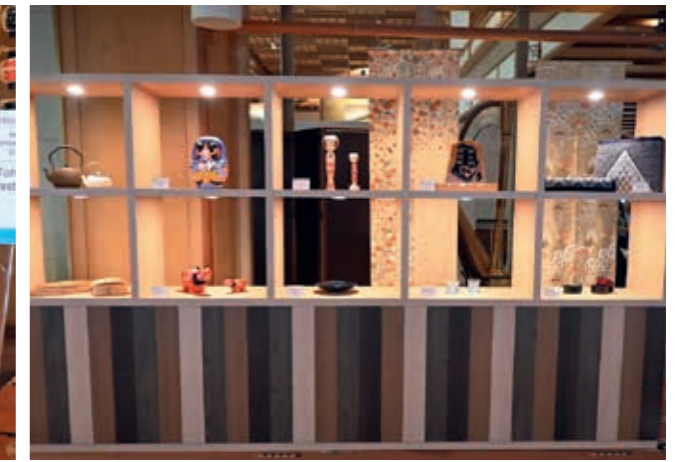
説明を受ける大臣(ドイツ)



-googleによる体験を行う大臣(イギリス)



PRブース(東北のまつり衣装の展示)



PRブース(東北の伝統工芸品の展示)



大野英男東北大学総長より説明を受ける大臣(カナダ・EU)



デモンストレーションブース(打掛試着体験)



デモンストレーションブース(書道体験)



展示ボード



PRブースパネル



PRブースボード



デモンストレーションブース(七夕飾り作り体験)



デモンストレーションブース(抹茶体験)

5 G7関連事業(プレス向けエクスカージョンバスツアー)



全国都市緑化仙台フェア会場



仙台城跡(伊達武将隊松尾芭蕉のガイド案内)



玩愚庵(伝統工芸体験)(秋保)



秋保大滝不動尊



観瀾亭(お茶体験)(松島町)



瑞巖寺(松島町)



ICHIGO WORLD(山元町)

6 G7歓迎事業(アキウナイト)



参加者集合写真



郡和子推進協会会長(仙台市長)乾杯挨拶



赤間次彦仙台市議会議長 中締め挨拶



秩父英里さんによるピアノ演奏



歓談の様子

7 G7歓迎事業(語学ボランティアの活動)



ヴァーツィンガー大臣(ドイツ)の誕生日祝い



秋保の田植踊



仙台すずめ踊り



仙台すずめ踊り



東北絆まつりファッションショー



食のPR ずんだ団子



食のPR 東北のワイン



食のPR 東北の日本酒



インフォメーションデスクでの案内(仙台駅)



インフォメーションデスクでの案内(仙台駅)



インフォメーションデスクでの案内(仙台駅)



PRブースでの案内補助(ホテル佐勤)



仙台駅でのお出迎え



アキウナイトでの案内補助(ホテル佐勤)



デモンストレーションブースでの案内補助(ホテル佐勤)



ホテル佐勤でのお見送り



仙台駅でのお見送り



8 G7歓迎事業(歓迎装飾・広報掲示物等)



仙台駅アーチ



仙台駅アーチ



歓迎フラッグ(定禅寺通り)



仙台駅東口フロアシート



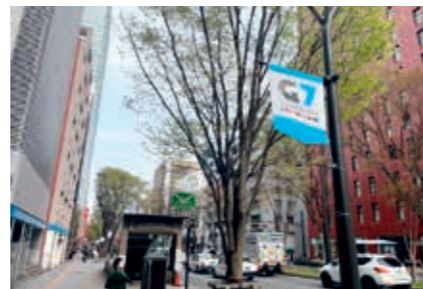
歓迎フラッグ(仙台駅前)



懸垂幕(AER)



吊看板(市役所本庁舎)



歓迎フラッグ(青葉通り)



吊看板(秋保・里センター)



街頭ビジョン(仙台市中心部商店街)



歓迎フラッグ(秋保温泉街路灯)



懸垂幕(秋保総合支所)



歓迎バナー(仙台空港国内線ロビー)

9 G7歓迎事業(記念品・PRグッズ等)



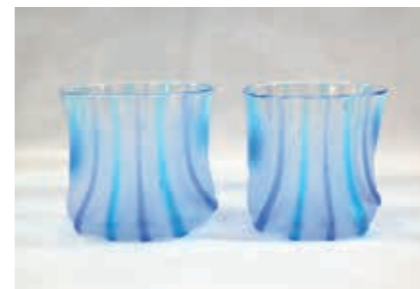
丸皿(磁器)(各国閣僚級へ)



宮城峡(ニッカウヰスキー)(各国閣僚級へ)



印章(はんこ)(各国閣僚級へ)



ペアグラス(各国次官級へ)



玉虫塗の小物入れ(各国参加者へ)



仙台弁こけし巾着袋  
(仙台弁こけし・ナノテラスコラボ)  
(各国参加者・報道関係者へ)



PRグッズ(ポスター・ペン・缶バッジ・クリアファイル)



カウンタダウンボード(市役所本庁舎)



プレスバッグ



カウンタダウンボード(秋保・里センター)

10 G7歓迎事業(取材・警備)



公式記者会見取材の様子(ホテル佐勤)



アキウナイト取材の様子(ホテル佐勤)



技術展示案内後の郡和子推進協会長(仙台市長)会見(ホテル佐勤)



取材を受けるジャパタイムズ記者



メディアセンター取材の様子



ホテル佐勤前



ホテル佐勤玄関前



仙台駅警備の様子

11 開催機運醸成事業(関連イベント)



開催記念東北観光物産フェア(仙台駅)



インフォメーションデスクでの東北観光PR動画の放映(仙台駅)



開催100日前イベント



中高生向けイベント(QuizKnock伊沢氏、須貝氏)



中高生向けイベント(QuizKnock伊沢氏、須貝氏)



G7関連図書の展示(仙台市図書館)



G7プランターの設置(全国都市緑化仙台フェア)



G7参加国出身者によるオンライン・トークイベント



G7給食(アメリカにちなんだメニュー)



巡回パネル展示(仙台市科学館)



まつりだ秋保でのPR



仙台・未来創造フォーラム(首都圏シティブロモーション@KITTE丸の内)でのPR

## 12 開催機運醸成事業(おもてなし研修)



語学ボランティア育成研修



語学ボランティア活動内容説明会でのロールプレイング(話し方・マナー)



インバウンドおもてなし研修(秋保地区宿泊施設従業員)



語学ボランティア活動内容説明会でのロールプレイング(英語)



## 第1章

# G7 仙台科学技術大臣 会合の概要

## 1 G7科学技術大臣会合とは

G7科学技術大臣会合は、2008年の北海道洞爺湖サミット開催時に初めて沖縄県名護市で開催され、2016年には、茨城県つくば市で開催されるなど、これまで8回開催されています。G7及びEUの科学技術担当大臣が一堂に会し、地球規模の課題の解決に向けた科学技術協力の強化等について議論が行われています。

仙台で開催された会合では、「信頼に基づく、オープンで発展性のある研究エコシステムの実現」をメインテーマとし、今後の科学技術政策の方向性として、「科学研究の自由と包摂性の尊重とオープン・サイエンスの推進」、「研究セキュリティとインテグリティの取組による信頼ある科学研究の促進」、「地球規模課題解決に向けた科学技術国際協力」について議論が行われ、G7各国及びEUと共通認識を得ました。また、本会合の成果文書として、「G7科学技術大臣の共同声明」を发出了しました。（「G7科学技術大臣の共同声明」は資料編に掲載）

（出典：内閣府公式ホームページ）

### ■会議名称

G7 Science and Technology Ministers' Meeting,  
Sendai  
G7仙台科学技術大臣会合

### ■主催

内閣府

### ■G7仙台科学技術大臣会合 参加者数

各国代表団・日本政府関係者：約90人  
（うち日本国外からの登録 約50人）  
報道関係者：約120人

### ■会合日程

日時	行事			場所		
	内閣府主催	推進協主催	その他主催			
1日目 5/12(金)	午前	高級実務者会合			ホテル佐勤	
		公式写真撮影			ホテル佐勤	
	午後	G7科学技術大臣会合①			ホテル佐勤	
			アキウナイト① (歓迎行事)			ホテル佐勤
2日目 5/13(土)	午前	G7科学技術大臣会合②			ホテル佐勤	
		議長国記者会見			ホテル佐勤	
	午後		公式エクスカージョン①			震災遺構荒浜小学校 東北大学災害科学国際研究所
				アキウナイト② (歓迎行事)		
3日目 5/14(日)	午前		公式エクスカージョン②		次世代放射光施設 NanoTerasu	
				ハイレベル会合「量子技術が切り拓く未来」 (東北大学、一般社団法人量子技術による産業創出協議会主催)		次世代放射光施設 NanoTerasu

## 2 会合参加者

(敬称略・役職は当時)

### 日本 Japan

内閣府特命担当大臣（科学技術政策担当）

高市 早苗

Sanae Takaichi

Minister in charge of Science and Technology Policy

### カナダ Canada

首席科学顧問

モナ・ネマ

Mona Nemer

Chief Science Advisor of Canada

### アメリカ United States of America

大統領府科学技術政策局長

アラティ・プラバカー

Arati Prabhakar

Assistant to the President for Science and Technology and  
Director of the Office of Science and Technology Policy

### ドイツ Germany

連邦教育研究大臣

ベッティナ・シュターク=ヴァッツィンガー

Bettina Stark-Watzinger

Federal Minister of Education and Research

### イタリア Italy

大学・研究大臣

アンナ・マリア・ベルニーニ

Anna Maria Bernini

Minister of Universities and Research

### フランス France

高等教育・研究大臣

シルヴィー・ルタイヨ

Sylvie Retailleau

Minister of Higher Education and Research

### イギリス United Kingdom

科学・イノベーション・技術省閣外大臣

ジョージ・フリーマン

George Freeman

Minister of State for Science, Research, Innovation and  
Technology

### EU European Union

研究・イノベーション総局国際協力局長

マリア・クリスティーナ・ルッソ

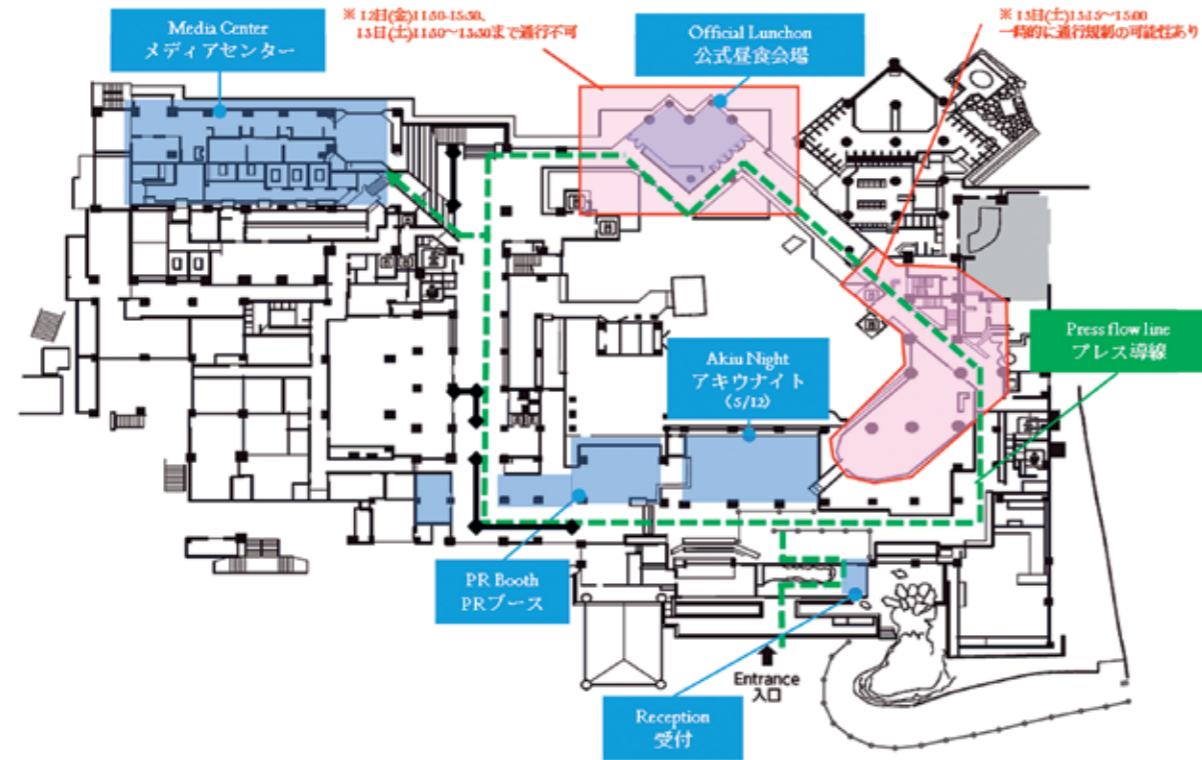
Maria Christina Russo

Director of Global Approach and International Cooperation in R&I



3 会場図

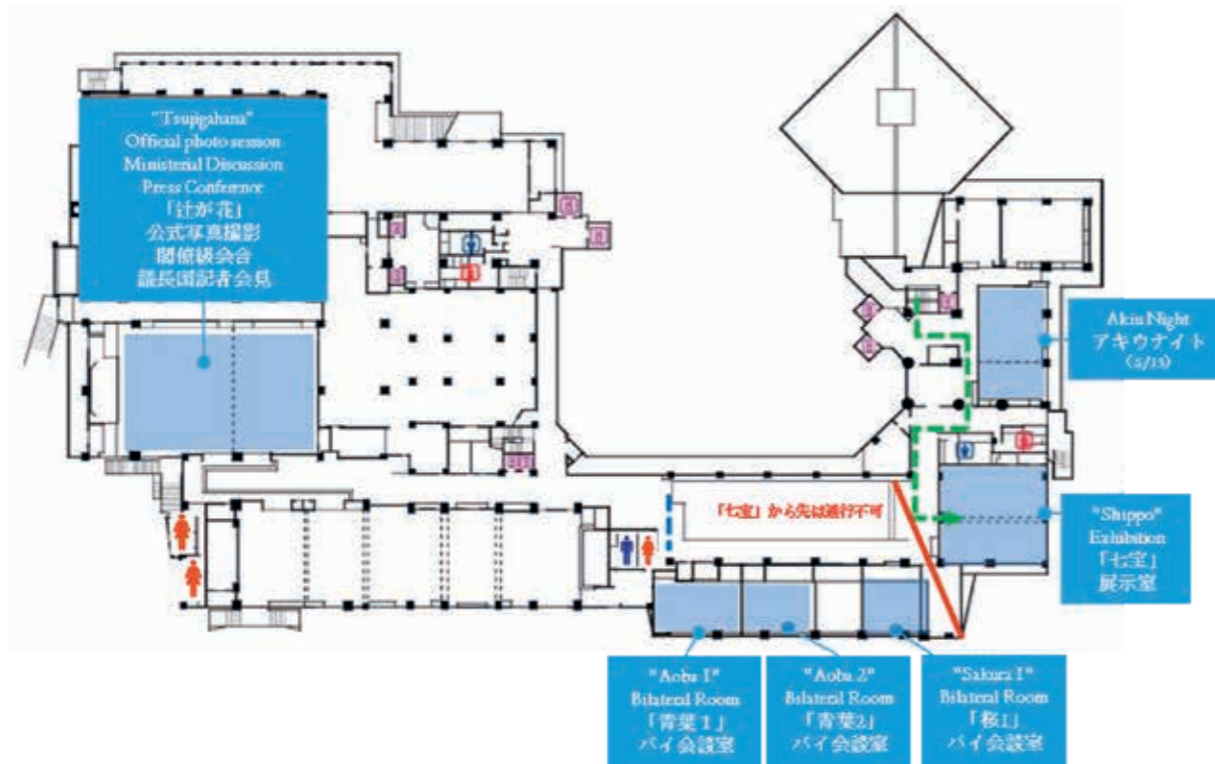
ホテル佐勘 (会場) 1F Hotel Sakan (Venue)



第2章

推進協の取り組み

ホテル佐勘 (会場) 2F Hotel Sakan (Venue)



## 1 2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会とは

**【名称】**

2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会

**【設立目的】**

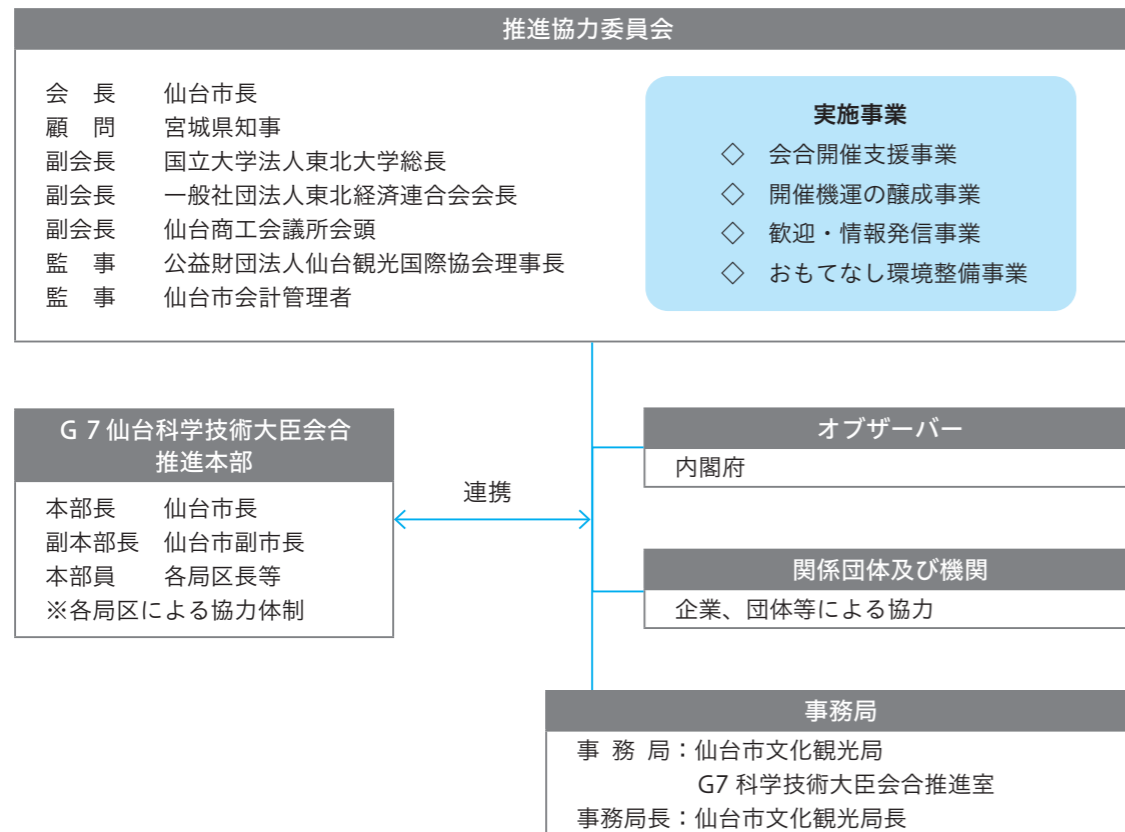
2023年5月に仙台市秋保地区で開催されるG7仙台科学技術大臣会合に向け、会合の開催支援や歓迎機運の醸成、仙台・東北の魅力や復興情報の発信などを目的とする。

**【設立月日】**

2022年10月28日

**【構成団体】**

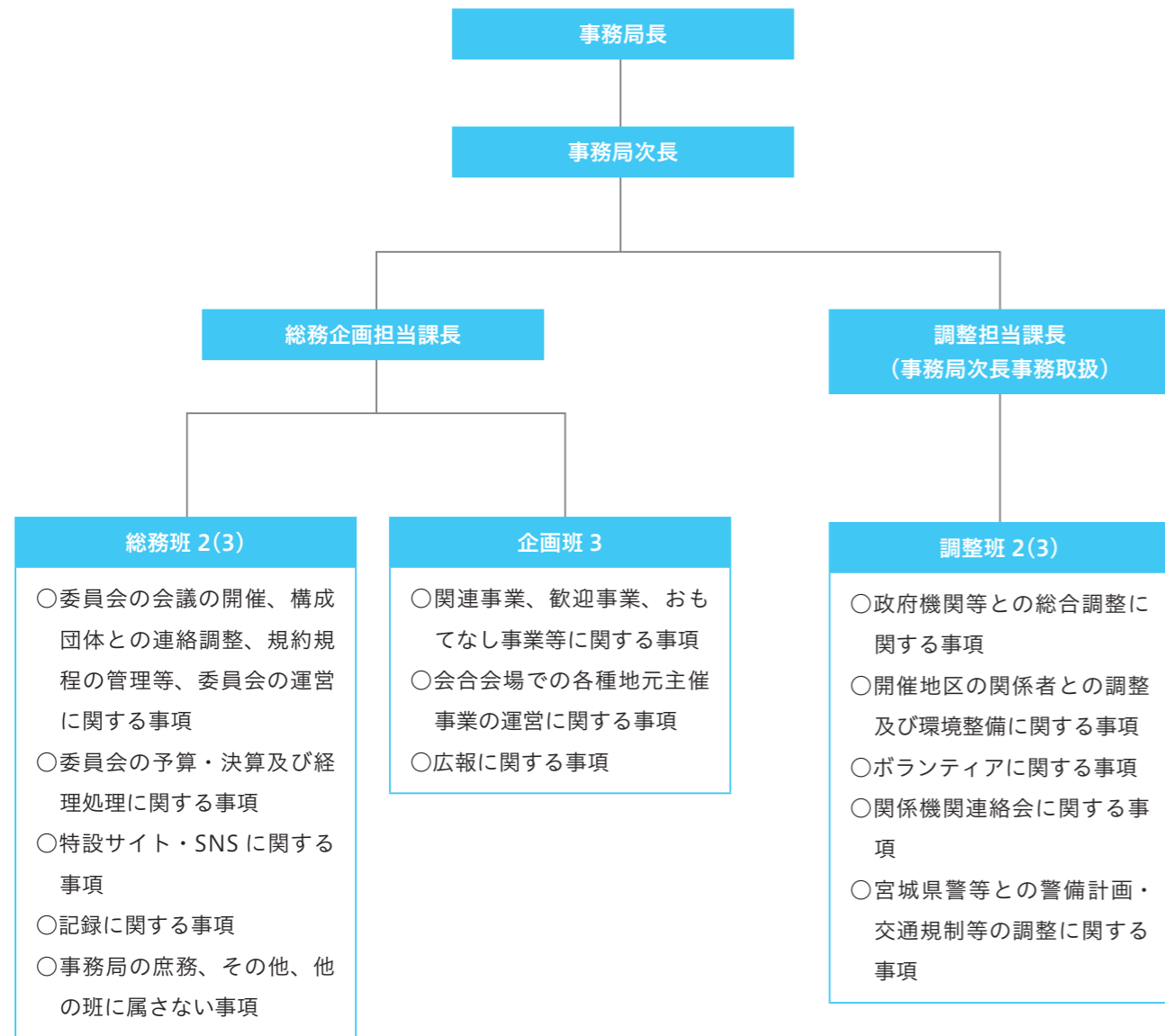
- ・ 仙台市
- ・ 宮城県
- ・ 国立大学法人東北大学
- ・ 宮城県警察本部
- ・ 第二管区海上保安本部
- ・ 宮城県市長会
- ・ 一般社団法人東北経済連合会
- ・ 仙台商工会議所
- ・ 一般社団法人仙台経済同友会
- ・ 株式会社河北新報社
- ・ 東日本旅客鉄道株式会社 東北本部
- ・ 仙台国際空港株式会社
- ・ 一般社団法人東北観光推進機構
- ・ 仙台ホテル総支配人協議会
- ・ 宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合
- ・ 公益財団法人仙台観光国際協会
- ・ 秋保温泉旅館組合
- ・ みやぎ仙台商工会
- ・ 秋保地区町内会長会
- ・ 湯元地区連合町内会



■開催の記録

	日時・会場	議事
設立総会	2022年10月28日(金) 15:30～	2023 G7 仙台科学技術大臣会合推進協力委員会規約について
第1回委員会	ホテルメトロポリタン仙台 21階 銀河	(1) 議案 ①第1号議案 副会長の指名について ②第2号議案 監事の選任について ③第3号議案 収支予算(案) (2) 報告事項 ① G7 仙台科学技術大臣会合の実施概要について ② 2023 G7 仙台科学技術大臣会合推進協力委員会の取り組みについて ③ その他
第2回委員会	2022年12月1日(木) 書面開催	(1) 議案 ①第1号議案 2023 G7 仙台科学技術大臣会合推進協力委員会 構成団体及び委員の追加について ②第2号議案 2023 G7 仙台科学技術大臣会合推進協力委員会規約の改正について
第3回委員会	2023年2月14日(火) 14:00～ 仙台市役所本庁舎 2階 第一委員会室	(1) 議案 ①第1号議案 収支補正予算(案) (2) 報告事項 ①実施事業概要 ②各構成団体独自の取り組み ③その他
第4回委員会	2023年4月17日(月) 14:00～ 仙台市役所本庁舎 2階 第一委員会室	(1) 議案 ①第1号議案 監事の選任 (2) 報告事項 ①実施事業概要 ②会合開催日程 ③その他
第5回委員会	(予定) 2023年11月13日(月) 14:00～ 江陽グランドホテル 4階 真珠の間	(1) 議案 ①第1号議案 専決処分事項に関する件 ②第2号議案 収支決算報告 ③第3号議案 剰余金の処分 ④第4号議案 推進協力委員会の解散及び規約の廃止 (2) 報告事項 ①事業報告

■事務局の組織体制



( )内は、会計年度任用職員を含む人数

■推進協力委員会の予算・決算 ※2023年10月10日時点見込

《収入の部》

(単位：円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
1 仙台市負担金	121,756,000	121,756,000	0	
2 その他収入	0	129	129	預金利子
収入計	121,756,000	121,756,129	129	

《支出の部》

(単位：円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
1 推進協力事業費	111,925,000	105,859,292	△ 6,065,708	
(1) 会議開催支援事業	5,000,000	812,064	△ 4,187,936	警備・交通・ライフライン関係機関連絡会会場費用等
(2) 開催機運の醸成事業	30,916,000	30,845,233	△ 70,767	開催記念イベント等
(3) 歓迎・情報発信事業	72,901,000	72,783,525	△ 117,475	アキウナイト、エクスカーション、シティドレッシング等
(4) おもてなし環境整備事業	3,108,000	1,418,470	△ 1,689,530	ボランティア研修等
2 委員会運営費	931,000	133,560	△ 797,440	
3 効果測定	5,900,000	5,885,000	△ 15,000	
4 記録作成	3,000,000	2,365,000	△ 635,000	
支出計	121,756,000	114,242,852	△ 7,513,148	
収支差	0	7,513,277		

## 2 会合開催支援

### 主催者との連絡調整

G7仙台科学技術大臣会合に向けて、主催者である内閣府や、東北大学等の関係機関と連携して準備を進めました。

本市の科学技術を活かした取り組みや東日本大震災からの復興状況や仙台・東北の魅力を世界に発信することなど仙台開催の意義をまとめ、内閣府と協議しながら事業の大枠を固めました。事業を検討するにあたっては、前回2016年に仙台で開催されたG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議で行われた関連事業や歓迎行事を基本とし、つくば市で開催されたG7つくば科学技術大臣会合についても調査し、仙台・東北ならではの事業の実施を検討しました。

会合の仙台開催が決定した2022年9月から2023年5月までの約8か月の期間、内閣府及び警察庁等による現地視察のほか、各国大使館等関係者の視察も随時行われました。内閣府とはオンラインによる定例会議を行ったことに加え、東北大学等の関係機関も含めた合同会議や連絡調整を行い、関係機関と密に連携を取りながら開催に向けて準備を進めました。

### 会場・宿泊調整

大臣会合の会場、公式視察の訪問先などとの連絡調整を行うとともに、参加者・関係者の宿泊のため秋保地区のホテル・旅館への協力依頼等を行いました。各国・EUの代表団は全て秋保地区に宿泊されました。さらに警備やライフライン(電気、通信等)などの関係機関のスタッフが多数秋保地区に滞在し、24時間体制で業務にあたりました。

### 【各会場等】

#### ■ 宿泊ホテル

- ホテル佐勤、茶寮宗園

#### ■ 記念撮影

- ホテル佐勤

#### ■ 公式視察

- 震災遺構仙台市立荒浜小学校、南蒲生浄化センター、東北大学災害科学国際研究所、次世代放射光

施設「NanoTerasu」

※南蒲生浄化センターでの津波避難広報ドローンの視察は天候の影響により当日中止となりました。

### 警備・救急・消防体制、衛生体制

#### 【警備体制】

会合期間中は、秋保地区の会場周辺において内閣府と宮城県警察による警備が行われたほか、推進協力委員会が公式エクスカージョン等の関連事業の警備を行いました。

また今回の会合では、2016年に実施した検問などの交通規制は行わず、渋滞緩和への協力を依頼する広報を行いました。これにより、地域住民の負担は軽減されたところですが、地域の事業者から、規制等を懸念した観光客減少の影響を受けたとの声もあったところです。

#### 【危機管理体制】

会合期間中は、想定され得る危機への対応やその発生を防止するため、下記のとおり危機管理レベル及び対応体制を設定しました。

期間：2023年5月12日(金)～5月14日(日)

体制：危機管理レベル2(危機警戒本部の設置)

#### 【消防体制】

会合会場及び関連施設等における火災等の未然防止と災害発生時の消防活動に万全を期すため、仙台市消防局により消防特別警戒が実施されました。特に、会合会場である秋保地区においてはホテル佐勤に現地警戒本部を設置し、警戒体制を敷くとともに救急車両等を常駐配備しました。

期間：2023年5月12日(金)～14日(日)

体制：(1)5月11日：情報連絡体制の強化  
(2)5月12日～14日：第二警戒体制として1日あたり約390人、延べ約1,170人に対応  
(うち秋保地区現地警戒本部に1日あたり約30人、延べ約90人が対応)  
(3)関連施設その他各消防署等に増強警戒配備を実施

災害等発生状況：警戒期間中、会合の開催に関係する災害及び救急事案の発生なし

#### 【救急医療体制】

●DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣に備えた会合開催施設での待機と救護室設置

DMATの派遣に備え、ホテル佐勤内で医師等が待機し、救護室機能も兼ねて対応しました。

期間：2023年5月12日(金)～13日(土)\*22時以降は閉室  
場所：ホテル佐勤 リラクゼーションルーム

体制：医師2名、看護師2名、連絡員2名(仙台市立病院(5月12日)仙台医療センター(5月13日))

※加えて、DMATの派遣に備え、両日とも東北大学病院長の医師等がオンコール待機の体制を取りました。

#### ● 救急搬送体制

東北大学病院、仙台医療センター及び仙台市立病院において、会合参加者の救急搬送時の受入等について、協力体制を整備しました。

#### 【衛生対策】

会合会場や宿泊施設における衛生管理について、食中毒や感染症の予防のため、仙台市健康福祉局及び太白区が従前より衛生指導を実施し、会合開催や参加者の宿泊に備えました。

また、農林水産省より会期中の料飲提供事業者に対し、毒物混入等の危険に係る食品防御に関する情報提供がなされました。

### インフォメーションデスク設置運営

期間	2023年5月12日(金)～5月14日(日)
会場	仙台駅
主催	推進協

会合関係者の案内・誘導のため、インフォメーションデスクを仙台駅に設置しました。インフォメーションデスク



には、多数の語学ボランティアの方々にも協力いただき、参加者へ情報提供を行いました。

また、語学ボランティアが「おもてなし」の心で、横断幕を掲げてお迎え・お見送りをしました。

### 語学ボランティア

活動期間	2023年5月11日(木)～14日(日)
会場	佐勤(インフォメーションデスク、PRブース、巡回バス同乗)、仙台駅、エクスカージョン(震災遺構仙台市立荒浜小学校)
主催	推進協
参加者数	(従事者数) 38人 (活動人数) 延べ 58人

会合期間中、38人の語学ボランティアが、様々な場面で会合関係者等へのサポートやおもてなしを行いました。

仙台駅や会合会場の佐勤で会合関係者等へのお出迎えやお見送り、案内を行うとともに、佐勤内のPRブースでは仙台・東北の情報提供を行いました。初日、2日目の夜に実施された地元歓迎イベントでは、場内での案内や提供された東北の食材やお酒、披露された伝統芸能等の説明のサポート等を行いました。また、スタディツアーのバスにも同乗し参加者へ向けて説明を行い、エクスカージョンでは大臣たちの誘導サポート等を行いました。

今回活躍いただいた語学ボランティアは、事前に英語でのおもてなしやマナー、話し方等の研修を受講し、各自準備を重ねながら当日を迎えました。

#### 【募集】

(公財)仙台観光国際協会(SenTIA)に登録されているボランティア、仙台学生コンベンションサポーターの方々から募集し決定しました。

(募集期間)1月16日(月)～2月15日(水)

(応募人数)44人





### 【研修】

- 3月21日(火・祝) 10:00～13:00 初級者向け
- 3月21日(火・祝) 14:00～17:00 経験者向け
- 3月26日(日) 10:00～13:00 経験者向け

### 【結団式および活動内容説明会】

4月23日(土)、会合開催まで1ヵ月を切り、直前を控えて、語学ボランティアの結団式および活動内容説明会を開催しました。

結団式では、郡会長(仙台市長)から「これまでの研修やボランティア活動で培った知識や経験を活かし、仙台の顔としてお客さまをおもてなしいただきたい」と挨拶があり、語学ボランティアの代表2名が郡会長からボランティアジャンパーの贈呈を受けました。

代表2名はそれぞれ、お越しになる方々を笑顔でお迎えしたい、「活動場所や時間はそれぞれ違うが、一丸となって活動にあたりたい」と決意表明を行いました。

活動内容説明会では、活動本番におけるボランティアの配置場所や活動内容が発表され、仙台駅や会合会場などの具体的な場面を想定した英語でのロールプレイングや伝わる話し方・接客マナーなどの研修が行われました。

日時:4月23日(日) 13:30～17:00

場所:エル・パーク仙台 セミナールーム1・2



### 【当日の体制】

#### ■活動人数

- 5月11日(木) 6人(仙台駅6人)
- 5月12日(金) 17人(秋保地区9人、仙台駅8人)
- 5月13日(土) 22人(秋保地区9人、仙台駅9人、エクスカーション4人)
- 5月14日(日) 13人(秋保地区2人、仙台駅11人)
- 合計 58人

#### ■活動内容

- インフォメーションデスクでの案内(仙台駅、佐勘)
- スタディツアー(エクスカーション)の当日参加者への案内補助
- スタディツアー(エクスカーション)のバス同乗・参加者へのサポート
- PRブース、デモンストレーションブースでの案内・運営・語学補助
- アキウナイト運営補助(佐勘)
- 各国代表団への横断幕を用いたの歓迎、見送り対応
- エクスカーション時の代表団の誘導や案内の運営補助 など



### 【活動者アンケート】

「満足・どちらかと言うと満足」の方が87%と8割を超えた一方で、「どちらとも言えない・やや不満」の方が13%となりました。不満の主な要因は、語学を生かす場面が少なかったこと、前回のボランティアと比べて活動の場面が少なかったことであり、G7会合会場の雰囲気を感じる場面が多かったり、会合参加者と交流機会の多いほど満足度が高まっていました。

### 秋保地区団体・住民向け説明会

会合期間中は、会場であるホテル佐勘を中心に秋保地区において、宮城県警察による警戒や巡回等が実施されました。これに先立ち、秋保地区の事業者や住民を対象とした説明会を開催し、G7の概要や関連事業、期間中の警備や交通整理等について、推進協及び宮城県警察から説明しました。

宮城県警察では、交通混雑緩和のためチラシの配布やポスター・看板等の掲出、交通情報板やラジオ等を通じた広報等により協力を呼びかけました。



宮城県警察が掲示・配布したポスター・チラシ

### 【秋保地区団体・事業者向け説明会】

- ①2023年3月1日(水)14:00～15:30 秋保市民センター 参加人数:51人
- ②2023年3月4日(土)10:00～10:40 秋保市民センター 参加人数:15人



### 【住民向け説明会】

2023年4月8日(土)

- ① 14:30～15:30 湯元市民センター 参加人数:28人
- ② 18:30～19:30 秋保市民センター 参加人数:13人

### 3 公式エクスカージョン

#### 公式エクスカージョン

開催日時	2023年5月13日(土)午後、 2023年5月14日(日)午前
会場	震災遺構仙台市立荒浜小学校、 東北大学災害科学国際研究所、 次世代放射光施設「NanoTerasu」
参加者	G7各国の科学技術担当大臣 ほか随員、報道各社

公式日程として、代表団による市内の視察が行われました。過密な会合日程の合間を縫って、市内被災地や科学技術関連施設の視察を行いました。

震災遺構である荒浜小学校では、市長が東日本大震災における被災状況や、震災の記憶を残す震災遺構として荒浜小学校を保存すること、また、復興と同時に進められた多重防御等の防災に関する取り組みを説明しました。

被災地の次に訪れた東北大学の災害科学国際研究所では、デジタルツインやロボットなどの先端技術を活用した災害・防災に関するプレゼンテーションが行われました。

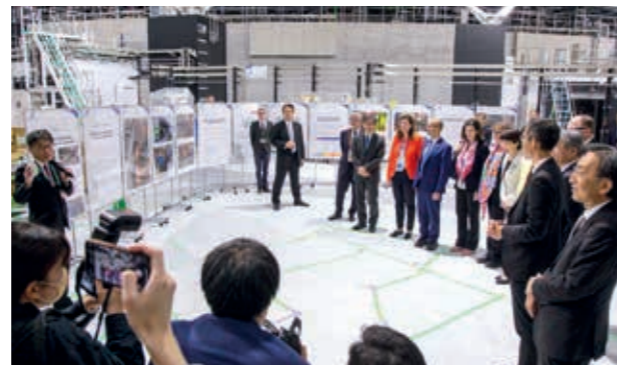
参加された大臣や各国代表団は熱心に説明に耳を傾け、質問をしたり、自らのスマートフォンで写真撮影する方もいらっしゃいました。

また、秋保と沿岸部を移動するバスの中では、天候の影響で視察が中止となった津波避難広報ドローンの紹介動画のほか、宮城県内の復興に関する紹介動画を上映し、科学技術を活用した本市の防災に関する取り組みや、東日本大震災からの復興について理解を深めていただきました。

最終日に行われた次世代放射光施設「NanoTerasu」の視察では、施設や分析性能の先進性に加え、産学官民が連携したイノベーションエコシステムについて紹介し、その後、視察に続きナノテラスを会場として、G7各国の代表と国内、海外の量子産業団体の代表が参加したハイレベル会合「量子技術が切り拓く未来」が開催され、量子産業化推進に向けた主要課題や各国間の連携について活発な議論が交わされました。

公式エクスカージョンには、G7各国が全て参加するとともに、多くのプレスの方々も参加し、仙台の復興の様子や科学技術を活用したまちづくりに関する取り組みなどが

幅広く発信されました。



#### 車内動画

主催 推進協

#### 【概要】

会合2日目に行われた公式エクスカージョンのバス車内にて、各国閣僚に向け、震災の記録や科学技術を活用した本市の取り組み、そして歓迎の意を表すための動画を放映しました。

#### 〈震災の記録動画〉

東日本大震災発生当時の様子や震災から12年が経過

した現在の様子、そして復興の歩みを伝える映像を、被災沿岸部地域に向かうバス車内で放映しました。内容は仙台市内の状況だけでなく、宮城・岩手・福島の被災3県の現在の状況も紹介し、各国閣僚へ向けて東北の復興の発信と、寄せられた支援に対する感謝の気持ちを表しました。

#### 〈震災遺構荒浜小学校 震災の記録動画〉

公式エクスカージョンの訪問先となった震災遺構荒浜小学校の震災の記録動画をご覧いただき、震災発生当時の様子や自然の脅威、命を守る行動、経験した方々のリアルな言葉をお伝えしました。実際に現地を訪れる前に、当時の様子を映像でご覧いただくことで、被害の実態をより深くご理解いただく機会としました。

#### 〈津波広報ドローン動画〉

震災からの教訓と科学技術を活用した防災の取り組みである、津波広報ドローンの紹介映像を放映しました。「自動運航のドローンにより津波避難広報を行うこと」及び「専用のLTE通信網でドローンの制御等を行うこと」の2点において世界初の事例であり、実現により、沿岸部の来訪者に対する効果的な津波避難広報体制の確立が期待される本事業を各国の科学技術の担当大臣に紹介することに大きな意義がありました。

#### 〈秋保地区の子どもたちによる国歌斉唱歓迎動画〉

会合参加者へ歓迎の意を表すため、秋保地区の学校の子どものたちによる各国の国歌斉唱動画を放映しました。一生懸命練習した各学校の子どもの歌声に、各国の閣僚からは笑顔があふれ、賞賛の声が上がりました。

#### 【担当国歌】

- あきう幼稚園：カナダ
- 馬場小学校：イタリア
- 秋保小学校：フランス
- 湯元小学校：ドイツ
- 秋保中学校：アメリカ、イギリス

## 4 関連事業企画・運営

### メディアセンターにおける仙台・東北PR

期間	2023年5月12日(金)10:00～ 5月13日(土)17:00
会場	ホテル佐勤 1階 萩亭
主催	推進協（メディアセンターの開設主体は内閣府）

5月12日(金)から13日(土)の2日間、ホテル佐勤にプレスの活動拠点となるメディアセンターが開設されました。推進協では、メディアセンター内に東北6県のPRポスターを掲出する他、各県市長会から協賛いただいた飲み物やお菓子等をふるまいました。

提供は各日2回、計4回実施し、提供に当たっては、株式会社コバヤシと宮城県産業技術総合センターに協力いただき、むすび丸とG7 SENDAIの文字がデザインされ、環境にやさしい素材で制作したお皿とカップを使用しました。



#### 【提供品一覧】

飲料	果実プレミアムジュース（山形県長井市） 伊達な温泉水（宮城県大崎市） ブルーベリージュース（宮城県富谷市） あまざけ初恋さくら（宮城県登米市） 麦茶（「ワケルくん」デザインボトル）（仙台市）
お菓子等	ソフトりんご（青森県青森市） 南部せんべい（青森県八戸市） りんごスティック（青森県弘前市） 白金豚ジャーキー（岩手県花巻市） 花巻温泉あんぱん（岩手県花巻市） バターどら（山形県山形市） フルーツポップコーン（福島県福島市） けせんぬまおつまみこんぶ（宮城県気仙沼市） ホヤぼーやサブレ（宮城県気仙沼市） 萩の月（仙台市） ふくちゃん（仙台市） NanoTerasu パウム（仙台市） ムスリム向け蒲鉾（仙台市） 仙台駄菓子（仙台市） おはぎパー（仙台市） 仙台みそケーキ（仙台市）



メディアセンター（ポスター・パンフレットによる情報発信）



メディアセンターの様子

### 地元関係者からの歓迎

開催日時	2023年5月12日(金)18:00
会場	ホテル佐勤 2階 辻が花
参加者	G7各国の科学技術担当大臣・ 閣僚、推進協会長（仙台市長）、 仙台市議会議員、東北大学総長

会合1日目のセッション終了後、地元を代表し、推進協会長（仙台市長）、仙台市議会議員、東北大学総長の3名がG7各国の代表に対し、歓迎のメッセージを述べました。また、仙台市から各国代表に贈呈した記念品についても紹介を行いました。



### 仙台市や東北の企業・大学、 国立研究機関等の技術展示

開催日時	2023年5月12日(金)9:00～ 2023年5月14日(日)11:00
会場	ホテル佐勤 2階 七宝

会合関係者および報道関係者に向けて、仙台市の取り組みや東北の企業・大学、国立研究機関等の技術力をPRする展示ブースを設置しました。

5月12日の18:30～19:00には、各国代表が展示ブースを訪問し、仙台市長から仙台市の取り組みについて紹介しました。

#### 【仙台市の展示】

テーマ
BOSAI-TECH
NanoTerasu
再生可能エネルギーを用いた防災の取り組み

#### 【東北大学の展示】

出展団体
災害科学国際研究所、 東北メディカル・メガバンク機構 スタートアップ事業化センター ほか （東北大学スタートアップ企業） イーアイシルク株式会社、 パワースピン株式会社、 ボールウェーブ株式会社

#### 【東北6県の企業・大学の展示】

担当県	出展団体
岩手	岩手大学・岩手県工業技術センター
岩手	いわて加速器関連産業研究会
山形	山形大学医学部東日本重粒子センター
山形	Spiber 株式会社
青森	八戸工業大学
青森	株式会社コア
福島	福島県立医科大学先端臨床研究センター
福島	フロンティア・ラボ株式会社
福島	白河素形材ヴァレー
福島	神田産業株式会社
福島	株式会社 IHI
福島	南相馬ロボット産業協議会
宮城	東北電子産業株式会社
宮城	株式会社ティ・ディ・シー
秋田	インスペック株式会社
秋田	Orbray 株式会社

#### 【国立研究機関等の展示】

テーマ	出展団体
量子ロボット	科学技術研究開発機構（JST）、慶應義塾大学
量子コンピュータ	理化学研究所
量子ムーンショット	科学技術研究開発機構（JST）、大阪大学、 浜松ホトニクス株式会社、 情報通信研究機構（NICT）
オープンサイエンス	国立情報学研究所（NII）
スペースデブリの除去衛星	アストロスケール
福島国際研究教育機構	復興庁



## PR用制作物

主催 推進協

### 【概要】

本市の取り組みや観光PRのため、会合関係者や報道関係者向けに英語版パンフレットを作成し、会合会場PRブースへの配架や、G7バッグに同封し配布しました。

### 【HOW TO ENJOY AKIU】

会合会場となった秋保地域の魅力がたっぷりと詰まった観光パンフレットを作成し、秋保のグルメや文化、観光スポット、交通アクセス、温泉の入り方等を紹介。パンフレットはG7開催終了後も海外からお越しいただく観光客にも配布できるような仕様にしました。



### 【3.11 BEFORE & AFTER SENDAI】

東日本大震災からの復興において、震災の経験や教訓を生かした防災環境都市づくりを推進してきた本市では、復興による新しい“まち”や“風景”ができあがっています。本パンフレットは、本市の今の姿やまちづくり(復興)の意義への理解を深めることを目的に制作・配付しました。

### 【SENDAI Restaurant guide for Vegans and Vegetarians, Muslims】

本市における食の多様性のPRを行う目的で、市内のベジタリアン・ヴィーガン・ムスリム対応店舗を紹介するパンフレットを最新の情報に改訂し、配布しました。

### 【See Japan, Experience Sendai Activities】

本市の文化や食、歴史等、様々な魅力を知ってもらうため、体験プログラムを紹介するパンフレットを最新の情報に改訂し、配布しました。



## アキウナイト

開催日時	2023年5月12日(金) 20:00~21:30 2023年5月13日(土) 20:00~21:30
会場	12日: ホテル佐勘 1階ロビー 13日: ホテル佐勘 2階 蓬莱
主催	推進協
来客者数	12日: 78人 (うち海外参加者 38人) 13日: 63人 (うち海外参加者 24人)

5月12日(金)、13日(土)にホテル佐勘を会場に、会合参加者やプレスの方々に仙台・東北の食や伝統芸能でおもてなしする「アキウナイト」を開催し、二日間で合計約140人の方にご参加いただきました。

12日(金)は、1階ロビーにおいて、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている「秋保の田植踊」や、東北6県のお祭

りが一堂に会す「東北絆まつりファッションショー」、すずめ踊り、秩父英里さんによるピアノ演奏が披露され、会場を大いに盛り上げました。13日(土)は2階蓬莱において、仙台・東北の美しい風景やパフォーマンスの動画を放映しながら、ゆったりとしたペーススタイルでお楽しみいただきました。会場では、仙台牛や宮城野ポーク、ずんだ団子のほか、東北各地の日本酒や秋保ワイン、ウイスキーなどもふるまい、仙台・秋保の食をご堪能いただきました。

### 【提供品一覧】

東北のお酒	
勝山 純米吟醸 猷	
純米大吟醸 鳳陽	
雪の松島 海 KAI 蔵の華 純米吟醸原酒	
宝船浪の音 純米酒 閑	
純米吟醸 浦霞 No.12	
純米吟醸 浦霞 禅	
阿部勤 純米吟醸辛口 赤版	
阿部勤 純米吟醸 亀の尾	
一ノ蔵 すず音 Wabi	
一ノ蔵 スパークリング純米酒	
純米 もりいずみ	
宮寒梅 純米大吟醸 贅撰	
真鶴 純米吟醸	
山和 純米吟醸	
黄金澤 純米吟醸 HITOMEBORE	
天上夢幻 夏吟 純米吟醸	
栗駒山 大吟醸	
栗駒山 ひとめぼれ 純米吟醸	
綿屋 純米吟醸酒 吟のいろは	
萩の鶴 極上純米酒	
純米大吟醸 澤乃泉	
特別純米酒 澤乃泉	
水鳥記 特別純米酒 夏酒	
蒼天伝 蔵の華 純米吟醸	
日高見 純米大吟醸 助六	
墨洒江 純米吟醸 蔵の華	
乾坤一 手造り純米吟醸	
ZAO 純米吟醸K 吟のいろは	
田酒 純米吟醸 百四拾	
関山 純米吟醸	
飛良泉 FOUR SEASONS 《春》 うすにごり	
純米大吟醸 「山形讃香」	
出羽桜 純米大吟醸 雪女神	
上喜元 大吟醸 古流しづく採り	
開当男山 純米吟醸	
ワイン	
下北ワイン RyoSelection2019(南サンマールワイナリー)	
下北ワイン KanonSparkling2020( // )	

ワイン
ゼーレオオハサマ メルロー 樽熟成 2019年産(嶺エーデルワイン)
ゼーレオオハサマ スパークリングワイン シャルドネ 2016年産( // )
秋保メルロー 2020(嶺仙台秋保醸造所・秋保ワイナリー)
秋保フィールドブレンドブラン 2020( // )
ラセリーア レカトルセパージュルジュ(嶺みらいファームやまと美 Vineyard & Winery)
ラセリー美 レカトルセパージュブラン( // )
MERLOT 2021 メルロ(南三陸ワイナリー(嶺志津川醸造所))
CHARDONNAY 2022 シャルドネ( // )
小公子 Sweet Premium(小坂まちづくり(株)・小坂七滝ワイナリー)
フリーラン ロゼ ワイングランド( // )
ドメイヌ・タケダ ベリーA古木 樽熟成 2020(南タケダワイナリー)
シャトー・タケダ シャルドネ 2019( // )
2018 高島アルケイディアセレクトハーヴェスト(嶺高島ワイナリー)
2020 高島ラクロチュア・エレクトリック・エン上和田シャルドネ( // )
名子山(南酒井ワイナリー)
シャルドネ( // )
2019マイスターセクションキュヴェレツクツヴァイゲルトレーベ(南朝日町ワイナリー)
2021マイスターセクションキュヴェシャルドネ( // )
Vin de Ollage メルロー2021樽熟成(一社)ふくしま達瀬ワイナリー)
Vin de Ollage シャルドネ2021 キュベ菅野豊( // )
ビール
ウイスキー
長井ブルワリークラフトマン
宮城峡・伊達

### 料理

- 仙台牛ロースト
- 宮城野ポーク
- 宮城サーモン プチトマト マリネ
- 蔵王チーズ 生ハム巻き
- 宮城野菜のピクルス
- ずんだ団子

※お酒の提供については、各県市長会、宮城県酒造組合等にご協賛、ご協力いただきました。



## 会合参加者への記念品

会合関係者および報道関係者に向けて、仙台の魅力発信やイメージの向上、歓迎の意や震災以降の支援に対する謝意の伝達を図るため、仙台を代表する優れた技術、デザイン等を用いた各種記念品を贈呈しました。

### 【各国閣僚級】

#### ■品：丸皿（磁器）

- 制作：六華寮 岩井純氏
- サイズ：直径約25cm×高さ5cm
- 概要：皿のなかで星のように輝く模様が特徴的で、これまでに数々の受賞歴を有し、海外でも多くの個展を開催し高い評価を受けている。



#### ■品：印章（はんこ）

- 制作：仙章堂 庄子喜隆氏
- サイズ：印章 直径約1.5cm
- 概要：仙台市出身の一級印章彫刻士であり、宮城県印章業組合長である庄子氏が伊達政宗公の騎馬像をモチーフとし、ひとつひとつ手彫りで仕上げたG7仙台オリジナルデザイン印章。



#### ■品：宮城峡（ウイスキー）

- 製造：ニッカウヰスキー株式会社
- 内容量：700ml
- 概要：青葉区にあるニッカウヰスキー仙台工場・宮城峡蒸溜所で製造されたウイスキー原酒のみを使用したシングルモルトウイスキー。仙台の自然に育まれた華やかでフルーティーな香り、さわやかな余韻が特徴。



### 【各国次官級】

#### ■品：ペアグラス

- 制作：ガラス工房尚 鍋田 尚男氏
- サイズ：直径8.5cm×高さ8cm
- 概要：美しい曲線とガラスの中に流れる色が特徴的で、今回の作品の澄んだ青色は秋保大滝をイメージして作られた。



### 【各国その他会合関係者】

#### ■品：玉虫塗の小物入れ

- 制作：(有)東北工芸製作所
- サイズ：直径10cm×高さ4.5cm
- 概要：艶やかに照り返す発色と光沢が特徴の「玉虫塗」。仙台七夕飾りをモチーフにG7仙台ロゴをあしらったオリジナルデザインの作品。



### 【各国その他会合関係者・報道関係者】

#### ■品：仙台弁こけし巾着袋

- 制作：エントワデザイン株式会社
- サイズ：縦26cm、横17.5cm
- 概要：宮城のご当地キャラクターである「仙台弁こけし」と、次世代放射光施設「NanoTerasu」がコラボしたオリジナルデザインの中着袋。



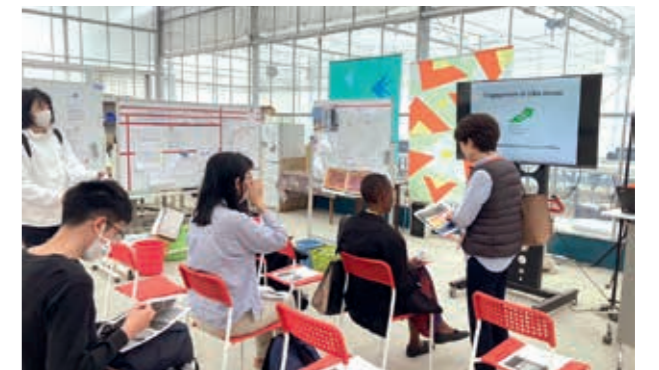
## プレス向けエクスカーショントラバツァー

主催 推進協

2023年5月12日（金）から14日（日）の期間中、会合関係者や報道関係者向けに、エクスカーショントラバツァーを設け、秋保地区や仙台市・宮城県内の観光地を中心とした観光資源や、文化・自然・歴史・学術・食などのPRおよび沿岸部被災地域の復興情報の発信を図りました。

### 【ツアー内容】

開催日	訪問先
5月12日（金）	第40回全国都市緑化仙台フェア 未来の杜せんだい2023、仙台城跡（伊達武将隊松尾芭蕉のガイド案内）、定禅寺通り（車窓観光）
5月12日（金） 5月13日（土）	秋保工芸の里（伝統工芸体験）、秋保大滝
5月13日（土）	観瀾亭（お茶体験）、松島遊覧船、瑞巖寺（特別拝観）
5月14日（日）	アクアイグニス、ICHIGO WORLD



## 会合参加者・登録プレスへのPR

会合参加者および報道関係者に向けて仙台・宮城のPRを行うため、G7バッグに各種パンフレットやグッズを同封し、配布しました。



### ■配布場所

- 会合参加者：各宿泊部屋に配置
- 報道関係者：ホテル佐勤メディアセンター内にて配布

### 配布物：

- 【パンフレット等】\*全て英語表記
- エクスカーションバスツアー案内チラシ
  - 仙台ツーリストマップ
  - 秋保ガイドマップ
  - クーポン付き音声ガイドマップ
  - 仙台ガイドブック
  - 仙台体験&アクティビティガイドブック
  - ヴィーガン・ベジタリアン、ムスリム向け仙台レストランガイド
  - 仙台3.11ビフォーアフターパンフレット
  - 宮城県ガイドブック
  - みやぎ復興のたびパンフレット

### 【G7仙台オリジナルグッズ】

- クリアファイル
- フリクションボールペン
- 仙台弁こけし巾着
- ドリップコーヒー

## 仙台駅での東北の魅力発信 (G7仙台科学技術大臣会合開催記念 東北観光物産フェア、東北の観光情報動画の放映)

開催日時 / 開催期間	2023年5月12日(金)～14日(日) 【時間】 12日、13日 10:00～20:00、 14日 10:00～19:00
会場	(物産フェア) JR仙台駅 2階 スタンドガラス前 (動画放映) JR仙台駅 2階 ヨリ未知ポータル
主催	推進協 協力：東北各県市長会 (一社)東北観光推進機構

東北地方では唯一のG7関係閣僚会合開催地である仙台に訪れる会合関係者に対し、歓迎の意を表すと共に、東北6県の魅力あふれる食品や民芸品等の地場産品を紹介・発信することを目的に、JR仙台駅2階スタンドガラス前にて物産フェアを開催しました。また、隣接するヨリ未知ポータルの大型モニターにおいて、仙台市の観光情報や東北地方の四季折々の美しい風景の動画を放映し、仙台および東北地方の魅力発信を行いました。

会合関係者のみならず、多くの市民や観光客たちで賑わいを見せたほか、同時期に開催されている会合の開催も広く周知することができました。



物産フェア



動画放映

## 第40回全国都市緑化仙台フェアとの 連携事業（秋保地区花壇整備、G7花壇）

### 【秋保地区花壇整備】

開催日時	2023年4月23日(日)
会場	太白区秋保町湯の橋及び観橋付近
参加者	湯元地区連合町内会 秋保小学区連合町内会 馬場連合町内会、湯元地区の児童 花苗の提供：第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会

### 【G7花壇】

開催期間	2023年4月26日(水)～6月18日(日)
会場	全国都市緑化仙台フェア会場
協力	第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会

「第40回全国都市緑化仙台フェア」は、G7仙台会合の開催期間中も開催されていたため、様々な連携事業を実施しました。開催地となる秋保地区を訪れる会合関係者に対し、歓迎の意を表すために、地元町内会や児童の皆さんにより、花壇が整備されました。花壇に植えられる花苗は、会合期間中も開催されている全国都市緑化フェアから提供いただきました。また、緑化フェアのメイン会場



秋保地区花壇



緑化フェア G7 花壇

では、G7参加国の紹介パネルと共に、G7花壇が設置されました。

秋保地区を訪れた多くの会合関係者を、色とりどりの花でおもてなしたほか、緑化フェアを訪れた市民や観光客等に、G7の開催や参加国の情報を発信することができました。

## 民間事業者等との連携事業

仙台の地域ブランド「都の杜・仙台」の参画事業者と障害福祉サービス事業者との連携の企画提案を行い、賛同した事業者により開催記念グッズが制作されました。

### ●珈琲まめ坊(仙台市青葉区)

G7会合をイメージしたブレンドコーヒー「Thanks the earth」を作り、店舗で販売を行うとともに、会合参加者に配布しました。



### ●NPO法人 ワンダーアート(仙台市若林区)

G7会合の参加国をイメージしたイラストがデザインされたポストカードやTシャツなどを制作しました。また、イラストを用いたパネルを制作し、会合会場であるホテル佐勤等に展示しました。



## 5 開催機運の醸成(市民向けイベント/展示)

### G7仙台科学技術大臣会合 開催100日前記念シンポジウム

開催日時	2023年1月31日(火)10:30~15:00
会場	TKPガーデンシティ仙台 ホールB
主催	推進協
来場者数	延べ約170人

#### 【プログラム】

##### ■特別講演

テーマ:「サミット警備の成功に向けて」

〈講師〉

元警視總監・元内閣危機管理監 高橋 清孝 氏

##### ■会合概要説明

テーマ:「G7仙台科学技術大臣会合に向けて」

〈講師〉

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局

統括官 奈須野 太 氏

##### ■パネルディスカッション

テーマ:「ナノテラスが仙台にもたらすインパクト」

〈パネリスト〉

一般財団法人光科学イノベーションセンター

理事長 高田 昌樹 氏

国立大学法人東北大学

理事・副学長 青木 孝文 氏

株式会社ティ・ディ・シー

代表取締役社長 赤羽 優子 氏

株式会社コングレ

専務取締役 紫富田 薫 氏

〈コーディネーター〉

特定非営利活動法人都市デザインワークス

代表理事 榊原 進 氏

#### 【概要】

会合開催まで100日前を迎えることを記念して、1月31日(火)にTKPガーデンシティ仙台でシンポジウムが開催され、市民ら延べ約170人が参加しました。

はじめに元警視總監・元内閣危機管理監高橋氏を招いた特別講演が行われ、過去のサミットを標的とした事件や、サミット警備を行う上での注意事項等について紹介されました。続いて、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官奈須野氏より、G7仙台科学技術大臣会合の概要について説明がございました。続いて行われたパネルディスカッションでは、特定非営利活動法人都市デザインワークス代表理事の榊原氏をコーディネーターに、一般財団法人光科学イノベーションセンター理事長の高田氏、国立大学法人東北大学理事・副学長の青木氏、株式会社ティ・ディ・シー代表取締役社長の赤羽氏、株式会社コングレ専務取締役の紫富田氏が、「ナノテラスが仙台にもたらすインパクト」をテーマに、ナノテラスの利活用の方針やG7が仙台で開かれることの意義、100日後の会議に向けた期待と意気込みなどについて、熱心な意見交換を行いました。また、イベント内容の再録記事を3月7日(火)河北新報朝刊に掲載しました。



### G7参加国の魅力発信セミナー・パネル展示

主催	(公財) 仙台観光国際協会
共催	推進協

〈日本で暮らすG7各国出身の講師によるオンライン・トークイベント〉

仙台市民に対して、参加国に対する理解を深めるとともにG7仙台会合への関心を高めるため、参加国出身の外国人講師によるオンライン・トークイベントを開催し、各講師の自己紹介やエピソードを交えながら、出身国について仙台市民に知ってほしいテーマで紹介しました。



オンライン・トークイベントの様子

#### 【開催日時】G7関連イベント「G7参加国出身ゲストのとおきの話」

	日時	ゲスト	参加人数
第1回 フランス	2023年3月10日(金) 18:30~20:00	仙台日仏協会アリアンスフランセーズ院長 グレゴリ・デュメン氏	34人
第2回 カナダ	2023年3月18日(土) 13:00~14:30	仙台市国際交流員 テシア・ロウ氏	21人
第3回 アメリカ	2023年3月25日(土) 16:00~17:30	仙台市国際交流員 タイラー・カールソン氏	21人
第4回 ドイツ	2023年3月26日(日) 13:00~14:30	東北大学災害科学国際研究所助教 ゲルスタ・ユリア氏 仙台観光国際協会職員 木村ノラ氏	43人
第5回 イギリス	2023年4月8日(土) 13:00~14:30	東北大学非常勤英語教師 マクファーレン・エミリー氏	27人
第6回 イタリア	2023年4月15日(土) 13:00~14:30	せんだい留学生交流委員 ファブレッティ・エレナ氏 元せんだい留学生交流委員 ビッティ・ダヴィデ氏	25人

計171人

#### 〈パネル展示〉

オンライン・トークイベントの講師による、各国の紹介パネルを展示。パネルでは、仙台との類似点・相違点、科学技術などの点からそれぞれの目線で母国の魅力について紹介しました。



仙台国際センターでの展示の様子

期間	会場
2023年3月3日(金)~ 3月9日(木)	仙台国際センター
2023年3月10日(金)~ 3月23日(木)	七十七銀行本店営業部
2023年3月24日(金)~ 4月9日(日)	スリーエム仙台市科学館
2023年4月11日(火)~ 4月23日(日)	仙台国際センター
2023年4月24日(月)~ 5月14日(日)	秋保・里センター

## G7仙台科学技術大臣会合 開催1カ月前記念イベント ～楽しいから始まる学び～ QuizKnock TALK LIVE+Quiz大会

開催日時	2023年4月16日(日)14:00～16:30
会場	国立大学法人東北大学 川内南キャンパス
主催	推進協 共催:東北大学グリーン未来創造機構
来場者数	中高生ら約200人

〈スペシャルゲスト〉

QuizKnock 伊沢 拓司 氏、須貝 駿貴 氏

【プログラム】

■第一部 TALK LIVE

〈テーマ〉「伊沢拓司・須貝駿貴が語る「科学」」

■第二部 Quiz大会

〈テーマ〉「クイズで学ぶ「G7」」

【概要】

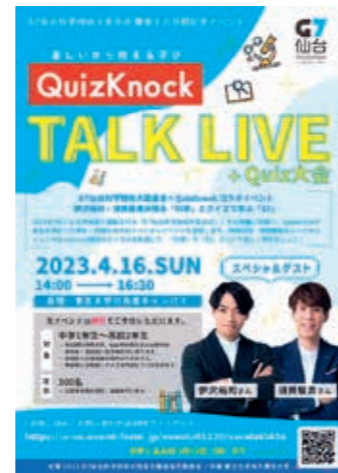
G7仙台科学技術大臣会合の開催を記念し、中高生向けに科学の面白さや科学技術が社会を支える基盤となっていることを伝え、科学への興味を喚起し、かつ夢や人生について考えるきっかけを提供するため、QuizKnockの伊沢拓司氏、須貝駿貴氏をスペシャルゲストとして招いたイベントを実施しました。イベントには仙台市在住または仙台市の学校に通う中学生・高校生約200人が参加し、伊沢氏・須貝氏と一緒に身の回りの科学について考えたり、G7について学んだりしました。

第一部では、伊沢氏と須貝氏によるトークライブを実施。リアルタイムでの発信ツールを使って参加者からのアイデアを募集するなど会場が一体となって進みました。お二人からは、どんなものでも科学との関連性があるということや、いかなる仕事も科学と密接に関わっていること、身の回りの科学は多くの会社や大学、自治体によって支えられていること等を、様々な例を挙げながら中高生に分かりやすく伝えていただきました。また、G7サミットや関係閣僚会合についても説明いただき、今回G7科学技術大臣会合が仙台市で開催される意義について中高生に理解を深めてもらう機会となりました。

第二部では、会場の参加者全員とクイズ大会を実施。クイズは事前に参加者から募集しQuizKnockが選定改題し

たもの10問が出題され、参加者はハンドサインで回答しました。10問のクイズに最後まで勝ち残った7人は決勝戦に進出し、早押し問題に挑戦。決勝戦のクイズは伊沢氏自らが作成した全7問が出題され、クイズを通じて科学やG7についての理解を深めてもらいました。優勝者やクイズのアイデアが採用された参加者には、伊沢氏、須貝氏からサイン色紙やサイン本が贈られるなど会場は大いに盛り上がりました。

イベントの様子(第一部のみ)は、後日仙台市の公式動画チャンネル「せんだいTube」にもアーカイブ動画を公開し、イベントの参加者だけでなく全ての方を対象に発信することで、G7仙台科学技術大臣会合のPRにつなげました。



## G7仙台科学技術大臣会合開催30日前 記念講演「科学技術を読み解く力」

開催日	2023年4月14日(金)14:00～15:30
会場	ホテルメトロポリタン仙台 21階 銀河
主催	(一社)東北経済連合会 共催:推進協 後援:(一社)日本経済団体連合会、 内閣府

【概要】

G7仙台会合開催30日前を記念して、(一社)東北経済連合会の主催でAI研究・読解力の第一人者である国立情報学研究所社会共有知研究センター長の新井紀子氏による

科学技術によりもたらされる未来についての講演会「科学技術を読み解く力」を開催しました。

当日は話題の「ChatGPT」の有効な利用についてのほか、具体的な事例をもとにAIとのかかわり方について分かりやすく解説いただきました。また、新井先生が考案された『リーディングテスト』に触れ、「科学技術を読み解くためには“説明文を読む力”をつけましょう」と話され講演を締めくくりました。



## G7仙台科学技術大臣会合 機運醸成セミナー 「古きを学び、新しさを考える」

開催日時	2023年4月16日(日)14:00～16:00
会場	秋保・里センター
主催	推進協 共催:秋保温泉旅館組合 (一社)秋保地域活性化協議会
参加者数	約80人

【プログラム】

●第一部 講演会

テーマ:江戸時代の秋保温泉

～佐藤勘三郎家文書から～

講師:宮城学院女子大学 学芸学部人間文化学科  
高橋 陽一 氏

●第二部 演武&座談会

テーマ:これからも続いていく秋保温泉のために

出演:伊達武将隊メンバー

秋保温泉の旅館の女将3名

会場となる秋保温泉の歴史を学び、これからの秋保温泉について考えることで地元の会合開催の機運醸成を図るセミナーを開催しました。第一部では、宮城学院女子大学

の高橋陽一氏により、江戸時代の文書から現代まで続く秋保温泉の歴史についての講演をいただきました。第二部では伊達武将隊による演武で会場を盛り上げ、その後は伊達武将隊と秋保温泉の旅館の女将3名を交えた座談会が行われました。座談会では、秋保温泉の魅力やこれからの持続・発展のための展望などについて意見交換が行われました。



## G7給食

開催期間	2023年4月11日(火)～5月12日(金)
会場	仙台市内の小・中学校
主催	推進協

【概要】

G7仙台科学技術大臣会合をきっかけに、子供たちに世界への興味・関心を高めてもらうため、全ての市立小中学校において、G7参加国にちなんだ食材や料理を取り入れた「G7給食」を提供しました。

【G7給食のメニュー例】

米粉フォカッチャ、スパゲティシチリアーノ、オニオンスープ、オレンジ、牛乳

※G7参加国のイタリアにちなんだ料理として提供





### 子ども向けデジタルリーフレット

公開日	2023年9月8日(金)
対象	仙台市内の小学5年生～中学生
作成者	推進協

#### 【概要】

子どもたちにG7についてわかりやすく知ってもらうため、市内の小学5年生から中学生まで向けに、デジタルリーフレット「G7仙台科学技術大臣会合のギモンにお答え！」を作成・配布しました。サミットの概要やG7仙台科学技術大臣会合で議論された内容、仙台市の取り組みなどについて発信するとともに、科学者として研究を行っている東北大学の先生へのインタビュー記事を掲載しました。



### G7図書展示

主催	推進協、各市立図書館
----	------------

#### 【期間・会場】

開催期間	会場
2023年4月28日(金)～5月24日(水)	市民図書館、若林図書館、太白図書館
2023年4月28日(金)～5月17日(水)	泉図書館、宮城野図書館
2023年5月2日(火)～5月24日(水)	広瀬図書館
2023年4月28日(金)～5月21日(日)	榴岡図書館

#### 【概要】

仙台市内の各図書館等で、G7をテーマにした図書の



市民図書館

展示を行い、利用者に貸し出しを行うG7図書展示を開催しました。

各図書館では、科学技術に関する本を集めたコーナーを設けたり、G7参加国を紹介する本をまとめたりと、それぞれが工夫を凝らしたG7図書コーナーを展開しました。

### 巡回パネル展示

主催	推進協
----	-----

G7仙台科学技術大臣会合開催を記念して、会合の概要や仙台開催の意義、開催場所である秋保地域の魅力、会合参加国の概要、科学技術を活用した本市の取り組み等を紹介する巡回パネル展示を行いました。

期間	会場
2022年12月1日(木)～2023年5月14日(日)	秋保・里センター
2022年12月1日(木)～2023年5月14日(日)	スリーエム仙台市科学館
2022年12月1日(木)～12月22日(木)	秋保総合支所
2023年1月5日(木)～1月23日(月)	宮城野区役所
2023年1月5日(木)～1月23日(月)	AER 5階展示スペース
2023年1月23日(月)～5月14日(日)	市役所本庁舎 1階ロビー
2023年1月26日(木)～2月13日(月)	若林区役所
2023年2月13日(月)～3月3日(金)	泉区役所
2023年3月3日(金)～3月20日(月)	仙台国際センター
2023年3月21日(火)～4月7日(金)	藤崎本館
2023年4月10日(月)～4月20日(木)	宮城総合支所
2023年4月20日(木)～5月14日(日)	仙台市天文台



秋保・里センターでの展示の様子

## 6 歓迎・情報発信・PR

### 懸垂幕・吊看板の掲出

主催	仙台市
----	-----

G7仙台科学技術大臣会合を周知するための懸垂幕・吊看板を作成し、仙台市内の各施設に掲出しました。



AER



市役所本庁舎



秋保・里センター

掲出場所	掲出期間	掲出物
仙台市役所本庁舎	2022年11月22日(火)～2022年12月9日(金)、2023年4月13日(木)～5月14日(日)	吊看板
秋保総合支所	2023年2月1日(水)～5月14日(日)	懸垂幕
秋保・里センター	2023年3月1日(水)～5月14日(日)	吊看板
太白区役所	2023年4月3日(月)～5月14日(日)	懸垂幕
AER	2023年4月3日(月)～5月14日(日)	懸垂幕

### カウントダウンボード設置

設置日	2023年2月1日(水) (開催100日前)
主催	推進協

G7仙台科学技術大臣会合開催までの日数を示すカウントダウンボードを、100日前である令和5年2月1日より市役所本庁舎1階ロビー、秋保・里センター、太白区役所、秋保総合支所などに設置しました。

その他、推進協の会議や各種関連イベント時にも設置し、開催機運の醸成を行いました。

#### 【常設場所】

- 仙台市役所本庁舎1階ロビー
- 秋保・里センター
- 太白区役所
- 秋保総合支所
- 推進協事務局(仙台市G7科学技術大臣会合推進室内)



## シティドレッシング

作成者	推進協
-----	-----

仙台市内中心部や玄関口であるJR仙台駅および仙台空港、会合会場となった秋保地域等にてG7仙台科学技術大臣会合へ向けた歓迎装飾を掲出し、会合のために仙台を訪れる関係者に歓迎の意を表すとともに、歓迎機運の醸成を行いました。

なお、市内中心部のフラッグについては、同時期に開催中の「第40回全国都市緑化仙台フェア」と連携して掲出しました。



仙台駅アーチ



仙台駅フロアシート

## 【仙台市中心部および仙台国際空港】

掲出場所	掲出期間	内容
仙台駅前ガス灯、青葉通り定禅寺通り	2023年3月30日(木)～5月14日(日)	歓迎フラッグ掲出
ドコモビジョン(仙台市中心部おおまち商店街大型ビジョン)	2023年4月13日(木)～5月14日(日)	デジタルサイネージ掲出
NTT東日本ビジョン(南町通り/青葉通り)	2023年5月8日(月)～5月14日(日)	デジタルサイネージ掲出
東北電力ビジョン	2023年4月13日(木)～5月14日(日)	デジタルサイネージ掲出
JR仙台駅(2階から3階への南階段)	2023年4月15日(土)～5月14日(日)	歓迎アーチ設置
JR仙台駅東口	2023年4月15日(土)～5月14日(日)	歓迎フロアシート設置
仙台国際空港 ①国内線到着ロビー ②国内線到着ロビー ③国際線到着ロビー ④国内線バゲージクレーム	2023年5月8日(月)～5月14日(日) ※①のみ4月13日(木)～5月14日(日)	①デジタルサイネージ掲出 ②歓迎看板掲出 ③歓迎看板掲出 ④デジタルサイネージ掲出
仙台空港駅改札脇	2023年5月8日(月)～5月14日(日)	歓迎看板掲出
東北大学青葉山キャンパス	2023年4月12日(水)～5月14日(日)	歓迎フラッグ掲出



横断幕

## 【秋保地区】

掲出場所	掲出期間	内容
秋保温泉街街路灯	2023年4月13日(木)～5月14日(日)	街路灯への歓迎フラッグ掲出
民間施設 ①秋保ヴィレッジ ②秋保ワイナリー ③秋保森林スポーツ公園 ④秋保木の家 ⑤仙台万華鏡美術館	2023年4月13日(木)～5月14日(日)	のぼり旗掲出 ※①のみのぼり旗に加え歓迎サイン掲出
市民センター ①湯元市民センター ②馬場市民センター ③秋保市民センター	2023年4月13日(木)～5月14日(日)	のぼり旗掲出
学校 ①湯元小学校 ②秋保小学校 ③馬場小学校 ④秋保中学校	2023年4月13日(木)～5月14日(日)	横断幕掲出
その他 ①秋保工芸の里 ②秋保大滝(秋保大滝不動尊)	2023年4月28日(金)～5月14日(日)	のぼり旗掲出



フラッグ



のぼり旗

## ポスター掲出、リーフレット配布各種、PRグッズ

作成者	推進協
-----	-----

### 【概要】

G7仙台開催を広くPRするため、広報・啓発グッズを作成し、周知を図りました。ポスターは仙台市の施設のほか推進協の構成団体、会合が開催される秋保地区の旅館や商店等の協力を得て貼り出し、リーフレット及びPRグッズはイベント会場や展示会場にて配布しました。

### 【作成数】

グッズ	配布数
ポスター	2,000枚
缶バッジ	8,000個
クリアファイル	5,000枚
フリクションボールペン	4,000個
紙袋(会合関係者・登録プレス向け)	300個
リーフレット	1,000部超

### ■PRグッズの主な配布先

会合主催者、推進協構成団体、G7会場・宿泊施設、市民利用施設、仙台市内教育機関など



## ウェブページ及びSNSによる情報発信

開設日	仙台市 G7ウェブページ: 2022年9月9日 推進協ページ: (日本語)2023年1月27日 (英語)2023年2月22日 Twitter:2023年1月27日 Instagram:2023年1月27日
作成者	仙台市 推進協

### 【概要】

推進協のホームページを開設し、会合開催のPRを行うとともに、市民向け関連イベント情報や仙台・秋保・東北の魅力、復興情報などを発信しました。

また、英語版ホームページを開設し、世界の国々に向けて、G7仙台の関連情報や、仙台・東北の魅力、復興情報などを発信しました。

なお、上記に先立ち、仙台市ホームページにおいて、誘致活動や会合開催についての情報発信及び推進協力委員会の会議資料等の掲載を行いました。

SNSにおいては、推進協のTwitterとInstagramのアカウントを開設し、日本語及び英語で開催地区である仙台・秋保の魅力発信等を行ったほか、会合の関連イベントや会合期間中の様子について発信しました。

■URL 推進協:(日本語) <https://www.g7sendai.jp/>  
(英語) <https://en.g7sendai.jp/>

※8月末にて終了

仙台市HP:<https://www.city.sendai.jp/mice/g7/2023g7sendai.html>

■SNS(Twitter) @g7\_sendai\_2023  
(Instagram)@g7\_sendai\_2023

※8月末にて終了

### ■主な掲載情報

- G7サミット及びG7科学技術大臣会合について
- G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会について
- G7仙台科学技術大臣会合開催概要について
- 仙台・東北の魅力について(観光情報)
- 東日本大震災からの復興のあゆみ

- 仙台市へのアクセス
- 子供向け「G7サミット」
- 関連イベント情報
- お知らせ(イベント実績報告等)

日本語版トップページ



英語版トップページ



Twitter



Instagram



## 仙台・未来創造フォーラム (首都圏シティプロモーション)ブース出展

開催日	2023年1月27日(金)
会場	KITTE (東京・丸の内) 4階 ホール
主催	仙台市
来場者数	255人

1月27日(金)にKITTE丸の内で開催された仙台・未来創造フォーラム(首都圏シティプロモーション)で、G7仙台科学技術大臣会合のPRブースを出展しました。仙台・未来創造フォーラムは、仙台市が首都圏の企業・団体等の代表者、国会議員、外国機関や官公庁関係者等を対象に実施しているイベントです。

2023年は、G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会の副会長である東北大学大野総長、仙台商工会議所藤崎三郎助会頭をはじめ、255人の仙台にゆかりのある方々にご参加いただきました。

会場では、仙台でのG7会合開催の意義などについて、パネルやリーフレットで紹介しました。



## 7 記事掲載

### JapanTimes 特集記事

掲載日	2023年6月19日(月)
作成者	株式会社 ジャパントイムズエージェンシー

会合で議論された内容や技術展示および各種エクスカーションツアーの様子を取材した特集記事が、観光情報等を紹介する広告記事とともに、Japan Times紙で掲載されました(2023年6月19日発行)。また、同記事については、WEB上でも公開され、同社のFacebookおよびTwitterで発信が行われました。

各国の大使館や外資系企業等の購読者に対して、会合の成功や観光情報を発信することで、グローバルMICE推進都市・仙台を周知することができました。



### 仙台市政だより

掲載	2023年1月号 特集 5月号 特集 6月号 市政トピックス
配布先等	市内全戸配布のほか、市・区役所、市民センター、地下鉄駅等で配布
作成者	仙台市

#### 【概要】

仙台市政だより各号にて、G7の概要や関連イベント等の案内、期間中の交通渋滞緩和に向けた協力をお願いなどを掲載し、周知・広報を行いました。

1月号: 会合の概要周知、関連事業の周知

5月号: 会合期間中の事業広報、関連事業の周知

6月号: 会合開催報告



## 8 おもてなし環境整備

### おもてなし環境整備

主催	仙台市、推進協
----	---------

#### ○環境整備

磊々峡遊歩道、秋保工芸の里、秋保大滝等の観光施設について、各種修繕や改修を行い受入環境を整えました。

また、会場周辺及び通行ルート上の道路の支障木伐採、道路舗装・区画線明示工事を行ったり、施工中の工事区間について、会合期間中の配慮を依頼し、休工としていただき、会合期間中及び前後の安全・安心な環境の整備を行いました。

加えて、「みんなでまちをきれいにしようキャンペーン」として、仙台のまちをきれいに清掃し、訪れる方を美しい「杜の都」でおもてなしするため、ポイ捨て防止の啓発活動と清掃活動を実施しました。

#### (参考)

- 磊々峡遊歩道: 階段・路面修繕・手すり・案内板・板塀修繕、東屋・ベンチ・テーブル修繕、刈払い・支障木伐採、投棄ごみの清掃
- 秋保工芸の里: 公衆トイレ修繕
- 秋保大滝: 公衆トイレ床面修繕、駐車場看板架け替え、周辺除草、伐採
- 秋保温泉街路灯の清掃・交換整備
- 周辺道路: 支障木伐採、道路舗装・区画線明示工事
- 周辺で施工中の工事日程: 会合期間中は休工へ調整
- 清掃活動: 仙台市中心部(仙台駅前、一番町、定禅寺通、青葉通 他)

### インバウンドおもてなし研修

開催日時	2023年4月12日(水) 13:00~16:00
会場	秋保・里センター
主催	推進協
参加者数	22人

秋保地区の温泉・宿泊施設の新入従業員を対象に、(株)スマイルアップの大原みよこ氏を講師に、これから増加が見込まれる海外からのインバウンドへの対応を学ぶ「インバウンドおもてなし研修」を実施しました。研修では異文化への理解やおもてなしとは何か、また英語での接客

について、グループワークやロールプレイングを通して学びました。参加者からは「知らなかった他国の文化を知る良い機会になった。他国の文化を尊重しつつ、日本の文化の良さが伝わる接客を心がけたい」「外国語が話せなくても、工夫をしながら気持ちの伝わるおもてなしの方法を学ぶことができた」などの感想が寄せられました。



## 9 警備体制等整備

### 警備・交通・ライフライン関係機関連絡会

開催日時	第1回 2022年12月22日(木)10:30~11:30 第2回 書面開催(2023年4月19日(水)送付)
会場	第1回 TKP ガーデンシティ仙台勾当台 2階 ホール1 第2回 書面開催
主催	推進協
来客者数	第1回 約94人 第2回 書面開催

#### 【概要】

G7仙台会合の成功に向けて、警備・交通・ライフライン等に関する意見交換や情報共有を図ることを目的に「警備・交通・ライフライン関係機関連絡会」を開催しました。

#### (第1回)

##### (1) 挨拶

2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会事務局

##### (2) G7仙台科学技術大臣会合の概要

(内閣府科学技術・イノベーション推進事務局)

##### (3) 2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会とその事業内容について(2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会事務局)

##### (4) サミットをめぐる情勢および警備諸対策について(宮城県警察本部)

##### (5) 昨今の海洋情勢について(第二管区海上保安本部)



#### (第2回)

(1) G7仙台科学技術会合の日程について

(2) G7仙台科学技術大臣会合に係る実施事業について

(3) 秋保地区周辺の警備体制について

(4) 自主警備等の取り組み状況の調査について

#### 【構成団体】

1	秋保温泉旅館組合
2	秋保地区町内会長会
3	湯元地区連合町内会
4	(株)NTTドコモ東北支社
5	KDDI(株)東北総支社
6	ソフトバンク(株)
7	楽天モバイル(株)
8	(公財)仙台観光国際協会
9	仙台空港鉄道(株)
10	仙台国際空港(株)
11	(一社)仙台経済同友会
12	仙台商工会議所
13	みやぎ仙台商工会
14	仙台ホテル総支配人協議会
15	宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合
16	(一社)東北観光推進機構
17	(一社)東北経済連合会
18	東北電力(株)
19	東北電力ネットワーク(株)宮城支社
20	日本郵便(株)東北支社
21	東日本高速道路(株)東北支社
22	東日本旅客鉄道(株)東北本部
23	東日本電信電話(株)
24	(一社)宮城県LPガス協会
25	(一社)宮城県タクシー協会
26	(一社)宮城県タクシー協会仙台地区総支部
27	(公財)宮城県トラック協会
28	(公財)宮城県バス協会
29	宮城県レンタカー協会
30	(一社)日本フードデリバリーサービス協会
31	仙台市
32	仙台入国管理局
33	第二管区海上保安本部
34	東京航空局仙台空港事務所
35	東北運輸局
36	東北経済産業局
37	東北総合通信局

38	(国研)量子科学技術研究開発機構
39	東北大学
40	東北大学病院
41	(一財)光科学イノベーションセンター
42	東北地方整備局
43	宮城県
44	宮城県警察
45	横浜税関仙台空港税関支署
46	横浜税関仙台塩釜税関支署

#### 会議主催者側出席者(オブザーバー)

1	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
---	-----------------------

#### ■各種訓練の実施

実施日	項目	内容
2023年4月13日	テロ対策訓練	主催:第二管区海上保安本部、宮城県警察、 (宮城海上保安部) 場所:荒浜小学校前面海域
2023年4月24日	不審者対応訓練	主催:第二管区海上保安本部(太平洋フェリー、宮城県警本部、宮城海上保安部) 場所:仙台塩釜港仙台区フェリーふ頭係留中のフェリー「きたかみ」船内
2023年4月27日	火災対応訓練	参加機関:ホテル佐勤自衛消防隊、 仙台市太白消防署 場所:ホテル佐勤
2023年4月28日	化学テロを想定した宮城県警・仙台市合同テロ対策実動訓練	参加機関:宮城県警察、仙台市危機管理局、 仙台市消防局、仙台市交通局 場所:仙台市交通局荒井車庫基地
2023年5月1日	テロ対応訓練	参加:第二管区海上保安本部(宮城海上保安部、 石巻海上保安署、仙台航空基地) 場所:仙台塩釜港塩釜区西ふ頭前面海域



## 第 3 章

---

### 資料集

## G7科学技術大臣の共同声明 G7 Science and Technology Ministers' Communique Sendai, May 12-14, 2023

We, the G7 Science and Technology Ministers, affirm our commitment to the shared values of democracy, rule of law, openness, and respect for freedom and human rights, as well as the importance of diversity, equity, inclusion, and accessibility, including gender equality, in research and development (R&D).

We condemn Russia's aggression against Ukraine as a threat to international order based on the rule of law. Considering the damaging and far-reaching impact that Russia's war against Ukraine has on Ukraine's research infrastructure and human capital, we highlight the importance of addressing research and innovation needs for Ukraine's recovery. We also acknowledge that science, technology, and innovation will play a key role in rebuilding Ukraine as a modern and sustainable economy.

We share a growing concern that some actors may attempt to unfairly exploit or distort the open research environment and misappropriate research results for economic, strategic, geopolitical, or military purposes. This undermines the principles and values that underpin open, transparent, reciprocal, and accountable international research cooperation and the integrity of research and may pose security risks. Addressing this concern should be based on informed decision-making and appropriate risk mitigation measures by G7 and other partners to continuously promote safe, secure, and open international cooperation in research and innovation.

G7 members are working together on these issues to reach a common understanding, for example through the Multilateral Dialogue on Values and Principles in Research and Innovation launched under the EU Global Approach on Research and Innovation, and other multilateral and bilateral efforts.

We recognize the importance of nurturing and

sustaining a diverse, inclusive, and highly-skilled workforce and of strengthening networks and promoting the international mobility of scientists, technologists, and other experts. This will help drive scientific and technological innovation, deliver next-stage economic growth and aid development of novel tools against widening inequalities. We are committed to supporting the G7 Gender Equality Advisory Council, which has promoted our shared values on diversity and inclusion, to create a welcoming environment for scientific and research activities free from stereotyping.

We will work together to forge a new generation of scientists and experts across industry, government, academia, and civic groups who can raise public awareness of the crucial role of science, technology, engineering, and mathematics (STEM) education in shaping our future.

Through international cooperation in research and innovation, we can collectively address urgent global health issues such as the need to develop safe and effective medical countermeasures (MCMs) in the event of a future pandemic as promoted through the 100 Days Mission, including vaccines, diagnostics, and therapeutics, to combat infectious disease threats, as well as tools to address other shared health burdens like cancer. This is with a view to strengthening the global health capacities and architecture, as well as achieving universal health coverage.

The development and governance of emerging and breakthrough technologies are key to resolving societal challenges and can lead to social innovation. Technologies such as artificial intelligence, quantum technology, biotechnology, and fusion, and other clean technologies are central to the green and digital transition as well as to economic and national security. With this in mind and in line with regulatory

and non-regulatory frameworks and technical standards, we will pursue the following initiatives to realize an open and evolutionary research ecosystem based on trust.

### 1. Respect for freedom and inclusiveness in scientific research and promotion of open science

The G7 will collaborate in expanding open science with equitable dissemination of scientific knowledge and publicly funded research outputs including research data and scholarly publications in line with the Findable, Accessible, Interoperable, and Reusable (FAIR) principles. This is so that researchers and people throughout the world can benefit from them as well as contribute to the creation of new knowledge, stimulation of innovation, democratization of access to knowledge by society and the development of solutions for global challenges. This will also help to build more reproducible and trusted research results.

We recognize openness, freedom, and inclusiveness should be enhanced globally for the sound development of scientific research. When making decisions about openness, the respect for universal human rights and the protection of national security are essential, and principles and rules related to academic freedom, research integrity, privacy, and protection of intellectual property rights should be applied and upheld.

We acknowledge that open science platforms can allow the rapid sharing of pathogen samples and pathogen genetic sequence data on a global scale. They should also enable early development and more rapid, effective, and equitable access to MCMs for the prevention and control of emerging and re-emerging infectious diseases. Robust multilateral data sharing is needed to ensure continued societal resilience to the global issues of today and the future.

The G7 also supports immediate open and public access to government-funded scholarly publications

and scientific data, and supports the endeavors of the scientific community to address challenges in scholarly publishing for broader sharing of appropriate scientific outputs.

To this end, we support the efforts of the G7 Open Science Working Group in promoting the interoperability and sustainability of infrastructure for research outputs, supporting research assessment approaches that incentivize and reward open science practices, and encouraging "research on research", aimed at helping to shape a more effective evidence-based research policy.

We acknowledge the importance of responsible and effective science communication to develop public awareness, appreciate scientific research and enhance public trust, by promoting the role of scientific evidence as an important consideration in the decision making of governments and the public. To improve the quality and impact of the interactions of science, policy, and society, the G7 supports the future development of science for policy and science communication. We encourage the involvement of society in research and innovation policies. Therefore, we approve the creation of the G7 Working Group on Science Communication to improve the quality and impact of interactions of science, policy, and society through strengthening the exchange of research and communication practices across these spheres. We encourage other partners with similar values to engage with the G7 and to enable mutual learning in science communication and public engagement.

### 2. Promotion of trustworthy scientific research through research security and research integrity measures

We believe that openness is fundamental, security is essential, and freedom and integrity are crucial. The G7 reaffirms the importance of common values and principles for global research security and research integrity and their dissemination. We continue to support the efforts of the G7 Security and Integrity

of the Global Research Ecosystem (SIGRE) Working Group, which has already developed the documents, “G7 Common Values and Principles on Research Security and Research Integrity” and “G7 Best Practices for Secure and Open Research”, and the online Virtual Academy, to promote research security and research integrity initiatives amongst the G7 community and with a view to future global outreach. We thank the SIGRE Working Group for its contribution to strengthening open, fair, and sound international cooperation and protecting sensitive R&D as well as for the successful outcomes it has delivered.

We recognize that more needs to be done to raise awareness among the research community of the risks of unauthorized knowledge and technology transfer and of foreign interference in research and innovation, and in turn to effectively apply risk mitigating measures wherever necessary.

G7 members continue to encourage regular events (e.g., workshops, discussions) at multilateral and bilateral fora that bring together representatives from academic research communities and governments to discuss challenges surrounding research integrity and security, share the progress of actions under way, and consider the development of roadmaps with priorities for continued engagement.

The G7 faces the challenge of how to tackle various issues emerging in domains that traverse security and economics. We will share effective practices on the protection of R&D from foreign interference, including strengthening the protection of technical information while ethically and responsibly applying advanced technologies that could have multiple uses.

### 3. International cooperation in science and technology to solve global issues

Transparent, accountable, and reciprocal international science and technology co-operation plays a crucial role in finding innovative solutions to

global challenges. Such challenges include: climate change; secure, stable, and sustainable energy supplies; biodiversity loss; water crisis; disruption to and depletion of terrestrial and aquatic ecosystems; communicable and non-communicable diseases; food insecurity; disruptions in global supply chains; and large-scale natural disasters including floods and droughts.

In view of the growing pressures in areas beyond national jurisdiction and the geo-political impacts of emerging technologies, we are committed to fostering science diplomacy, international collaboration for achieving the Sustainable Development Goals and promoting practical solutions that bring together perspectives from across disciplines, including science, policy, society, and social innovation. Interdisciplinary approaches encompassing all disciplines, including but not limited to social sciences and humanities, natural sciences, medicine and engineering and participatory practices (e.g. citizen science) are also essential to inspire renewed solutions to complex global challenges.

Scientific innovation connecting biological and physical science and economics, should support the measurement, within official statistics, of natural capital accounts and the implementation of the System of Environmental Economic Accounting (SEEA). Primary research, discovery, and new technologies are needed to address these challenges.

With its shared values, the G7 should demonstrate leadership in the following areas.

#### (1) Promoting Safe and Sustainable Use of Outer Space

Outer space plays a significant role in addressing global challenges and in providing substantive benefits in fields such as scientific research, communication, disaster management and preparedness, and national security, and enables economic growth and innovation. However, as the number and diversity

of space activities continue to expand, coupled with the rapid increase in the number of satellites and space debris in Earth orbit, urgent action is needed to ensure safe and sustainable use of outer space. In addition, the conduct of destructive direct-ascent anti-satellite (DA-ASAT) missile testing has accelerated orbital debris creation and endangered the safe and sustainable use of space for peaceful purposes by all actors.

We recall the Joint Communiqué of the G7 UK Carbis Bay Summit in 2021, reiterate our commitment to the safe and sustainable use of outer space, and share the view that orbital debris constitutes an urgent issue. We also share the view that the implementation of international guidelines adopted at the United Nations Committee on the Peaceful Uses of Outer Space (UN COPUOS) is urgent and necessary and we strongly encourage efforts to develop further solutions for orbital debris mitigation and remediation.

In advancing these developments and efforts, we will continue to attach great importance to cooperation with all nations through international bodies like UN COPUOS, the International Organization for Standardization (ISO), and the Inter-Agency Space Debris Coordination Committee (IADC).

To promote debris mitigation efforts, we will:

- Continue to act consistently with the Space Debris Mitigation Guidelines of COPUOS, the Guidelines for the Long-term Sustainability of Outer Space Activities (LTS Guidelines), and the IADC Space Debris Mitigation Guidelines.
- Share experiences and best practices on national orbital debris mitigation efforts including through UN COPUOS and IADC.
- When appropriate, support work to identify potential new guidelines in relevant fora.

To further contribute to the safe and sustainable use of outer space, we will share best practices on Space Situational Awareness (SSA).

We strongly encourage further research and

development of orbital debris mitigation and remediation technologies. We also strongly encourage development of national guidelines and regulatory frameworks for remediation that align with guidelines developed within UN COPUOS. We call for international cooperation, including through appropriate international bodies, that could encourage transparency and responsible remediation practices and foster the future development of international guidelines in this area.

We recognize the importance of continued discussion, in the UN COPUOS and International Telecommunications Union (ITU) frameworks, as well as with the International Astronomical Union (IAU) on the impact of large constellations of satellites on astronomy for the protection of the dark and quiet sky.

We reaffirm United Nations General Assembly Resolution A/77/41 as an important step to preserving the long-term sustainability of the outer space environment, and reiterate our respective commitments, already made by G7 members, not to conduct destructive direct-ascent anti-satellite missile tests and encourage others to follow suit.

#### (2) A Better understanding of the functions of the seas and the Ocean in the context of climate change and other anthropogenic stressors

Global climate change and other anthropogenic stressors such as pollution and over-exploitation of resources, including illegal, unreported, and unregulated (IUU) fishing are affecting the Ocean and causing serious threats to human society. Such threats include rising sea levels, loss of land, biodiversity loss, more frequent and damaging weather events, ocean acidification, and increasing ocean temperatures as well as marine heat waves, economic loss, and impacts for global food security. Since the Ocean is continuous and interconnected, it is critical to work internationally and cooperatively to address geographic and temporal data gaps



and missing types of ocean measurements. Understanding these data and enabling evidence-based actions are imperative to the health and sustainable use of the Ocean in a changing climate. Accordingly, the G7 endorses efforts by the G7 Future of the Seas and Oceans Initiative (FSOI) Working Group, which aim to better understand the ocean-climate-biodiversity nexus, and to sustain and enhance the Global Ocean Observing System (GOOS). In order to understand, monitor, and predict the Ocean comprehensively as one global system, it is essential to enhance observations of physical, biogeo-chemical, and ecological ocean properties and their interactions with socio-economic systems in data-gap areas including both polar and deep seas. We commit to continuing to conduct and improve comprehensive ocean observations, including utilization of research and survey vessels, Argo floats, moorings, satellites, and other ocean observation platforms based on international collaboration and coordination. Furthermore, it is necessary to improve the exploitation of both observations and modelling by steadily developing the Digital Twins of the Ocean so that action-able value-added monitoring and forecast information can be shared.

The G7 recognizes that the Arctic and Antarctic regions have been significantly affected by climate change. Polar research plays an increasingly important role to address this urgent climate issue. The G7 supports international cooperation in the field of Polar research. Observations can be strengthened by capitalizing on technological developments, sharing various data, and developing human resources and capacity through international observation platforms such as Arctic and Antarctic research vessels. Arctic research should be done in partnership and collaboration with Indigenous Peoples, with long term research relationships built on trust, respect, and mutual interest.

The G7 continues to support the implementation

of the United Nations Decade of Ocean Science for Sustainable Development (2021-2030). We also encourage the FSOI Working Group to develop concrete strategies based on policy papers such as the “G7 Ocean Decade Navigation Plan” and the “G7 Ocean Deal” so that the G7 can connect science to policy, translate knowledge into action, pursue and implement innovative science-based solutions to ocean challenges and develop sustainable ocean ecosystems and a blue economy.

### (3) Promotion of global utilization of research infrastructures and their out-put

In developing their missions, research infrastructures should consider relevant options to support responsible science and technology cooperation and be efficiently utilized on a global level as well as by individual countries.

In particular, very large research infrastructures such as synchrotron radiation facilities should aim to provide opportunities for scientists, technologists, and other experts, the public and private sector and innovators across the international research community to enhance their socio-economic impact through cutting-edge research, nurturing highly-skilled human resources and use of data and services as well as contributing to local community development.

Research infrastructures may prioritize their digital transition as a way to promote data accessibility and sharing. Research infrastructures provide the means to manage big data generated through advanced scientific instruments and to make data accessible and shareable globally in a reliable, ethical, secure, reciprocal, and transparent manner. Interconnecting physical and digital functions can bring about impactful innovation to the economy as well as novel research and development methodologies. Successful digitization can allow more researchers and communities to access computational resources, high-quality data, educational tools, and user sup-

port.

We look forward to discussions within the Group of Senior Officials on Global Research Infrastructures (GSO) regarding innovation of research and development systems by fully enhancing both physical and digital functions of research infrastructures. These discussions should take into account the G7’s shared values of open science, research security and research integrity, and should reflect appropriate international access frameworks such as the GSO Framework Criteria for international access to research infrastructures. We therefore encourage coordination and exchange between the GSO and the G7 Open Science Working Group to promote the implementation of open science and FAIR principles to the research outputs and protocols resulting from the use of research infrastructures.

### (4) Promotion of international talent mobility and circulation

The research community should develop skills and knowledge to improve the diversity of the research environment for tackling global-scale issues effectively. At the same time, connectivity among G7 and aligned countries should be enhanced, for instance, by bolstering collaboration among world-class researchers to strengthen a global-scale innovation ecosystem.

The G7 encourages international talent mobility and circulation, especially of early career researchers to engage in international cooperation and collaborative research with other partners sharing their values. We respect the freedom in scientific research in accordance with national laws and regulations. Moreover, we will work together to identify and minimize barriers to international research collaboration and mobility which will help to reinforce domestic R&D strengths.

In the field of life science, which is closely linked to innovations to address global issues such as climate change, food insecurity, and global health threats,

the Human Frontier Science Program (HFSP), an international research support program established by the G7 at the initiative of former Japanese Prime Minister Nakasone Yasuhiro at the 1987 Venice Summit, has promoted cutting-edge international joint research and human resource development, achieving significant results in the process. G7 members and HFSP countries that share our values will continue this pioneering initiative. We welcome the HFSP’s support for Ukrainian researchers.

(End)

## G7科学技術大臣コミュニケ(仮訳)

仙台、2023年5月12日-14日

我々、G7科学技術大臣は、民主主義、法の支配、開放性、自由及び人権の尊重という共通の価値に対するコミットメント並びに研究開発(R&D)におけるジェンダー平等を含む多様性、公平性、包摂性及びアクセス可能性の重要性を確認する。

我々は、ロシアのウクライナに対する侵略を、法の支配に基づく国際秩序に対する脅威として非難する。ロシアのウクライナに対する戦争が、ウクライナの研究インフラや人的資本に及ぼす損傷的かつ広範な影響を考慮し、ウクライナの復興に向けた研究及びイノベーションのニーズに対応することの重要性を強調する。また、我々は、科学技術及びイノベーションが、ウクライナを近代的かつ持続可能な経済主体として再建する上で重要な役割を果たすことを認識する。

我々は、一部の行為者が、開かれた研究環境を不当に利用し又は歪め、研究結果を経済的、戦略的、地政学的又は軍事的な目的のために不正に流用しようとする可能性や増大する懸念を共有する。これは、開かれた、透明性のある、相互的で、説明可能な国際研究協力と研究のインテグリティを支える原則と価値を損なうだけでなく、安全保障上のリスクをもたらす可能性がある。この懸念に対処するためには、G7及び他のパートナーによる十分な情報に基づく意思決定及び適切なリスク軽減措置に基づき、研究及びイノベーションにおける安全、安心かつ開かれた国際協力を継続的に促進するべきである。

G7メンバーは、例えば、EUの研究及びイノベーションに関するグローバルなアプローチの下で立上げられた研究及びイノベーションにおける価値と原則に関する多国間対話や、その他の多国間及び二国間の努力を通じて、共通の理解に達するためにこれらの課題に共に取り組んでいる。

我々は、多様で、包摂的で、高度に熟練した労働力を育成し、維持すること、また、科学者、技術者及びその他の専門家のネットワークを強化し国際的な流動性を促進することの重要性を認識する。これは、科学技術の革新を推進し、次の段階の経済成長をもたらす、拡大する不平等に対抗するための新たなツールの開発を支援するために役立つ。我々は、固定概念に囚われない科学や研究活動を歓迎する環境を創出するために、多様性及び包摂性

に関する我々の共通価値を促進してきたG7ジェンダー平等アドバイザー評議会を支援することにコミットする。

我々は、我々の将来を形成する上で、科学、技術、工学及び数学(STEM)教育が果たす重要な役割について国民の意識を高めるため、産業界、政府、学界及び市民団体を横断する次世代の科学者及び専門家の育成に協力する。

研究及びイノベーションにおける国際協力を通じて、我々は、100日ミッションを通じて促進される感染症の脅威と闘うためのワクチン、診断及び治療を含む、将来のパンデミックに備えた安全かつ有効な感染症危機対応医薬品等(MCMs)の開発や、癌のような他の共通の健康負荷に対処するツールの必要性など、緊急のグローバルヘルス上の課題に共同で対応することができる。これは、グローバルヘルスの能力及びアーキテクチャを強化するとともに、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成することを目的としている。

新興の画期的な技術の開発及びガバナンスは、社会的課題を解決するための鍵であり、社会革新につながる可能性がある。AI、量子技術、バイオテクノロジー、フュージョンエネルギーその他のクリーンな技術などは、グリーン及びデジタルへの移行、そして、経済及び国家安全保障の要となる。このことを念頭に置き、規制及び非規制枠組みや技術基準に沿って、信頼に基づく、オープンで発展性のある研究エコシステムの実現]のため、以下の取組を進める。

### 1. 科学研究における自由と包摂性の尊重及びオープン・サイエンスの推進

G7は、FAIR原則(Findable=見つけられる、Accessible=アクセスできる、Interoperable=相互運用できる、Reusable=再利用できる)に沿って、科学的知識並びに研究データ及び学術出版物を含む公的資金による研究成果の公平な普及による、オープン・サイエンスの拡大のために協力する。これは、世界中の研究者や人々がその恩恵を受けるとともに、新しい知識の創造、イノベーションの促進、社会による知識へのアクセスの民主化及び地球規模の課題に対する解決策の開発に貢献

するためである。これは、より再現性があり、信頼できる研究成果を構築することにも役立つ。

我々は、科学研究の健全な発展のためには、開放性、自由及び包摂性が世界的に強化されるべきであることを認識する。開放性について決定する際には、普遍的な人権の尊重と国家安全保障の確保が不可欠であり、学問の自由、研究のインテグリティ、プライバシー及び知的財産権の保護に関する原則と規則が適用され、支持されるべきである。

我々は、オープン・サイエンスのプラットフォームが、病原体サンプル及び病原体の遺伝子配列データを地球規模で迅速に共有することを可能にすることを認識する。新興及び再興感染症の予防と管理のために、早期の開発と、MCMsへのより迅速、効果的かつ公平なアクセスも可能にすべきである。今日と将来の地球規模の問題に対する継続的な社会的回復力を確保するためには、強固な多国間データ共有が必要である。

また、G7は、公的資金による学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセスを支援し、適切な科学的成果のより広範な共有のための学術出版における課題に対処する科学界の努力を支持する。

この目的のために、我々は、研究成果のためのインフラの相互運用性及び持続可能性を促進し、オープン・サイエンスの実践にインセンティブと報酬を与える研究評価アプローチを支援し、より効果的な証拠に基づく研究政策の形成を支援することを目指す「研究に関する研究」を奨励するG7オープン・サイエンスワーキンググループの努力を支持する。

我々は、政府及び国民の意思決定における重要な考慮事項としての科学的な証拠の役割を促進することにより、国民の意識を高め、科学研究を評価し、国民の信頼を高めるため、責任ある効果的な科学コミュニケーションの重要性を認識する。科学、政策及び社会の相互作用の質及び影響を改善するため、G7は、政策のための科学及び科学コミュニケーションの将来の発展を支援する。我々は、研究及びイノベーション政策への社会の関与を奨励する。したがって、我々は、関連領域にわたる研究及びコミュニケーションの実践例の交換の強化を通じて、科学、政策及び社会の相互作用の質及び影響を改善するための科学コミュニケーションに関するG7ワーキンググループの設置を承認する。我々は、同様の価値観を有

する他のパートナーに対し、G7と連携し、科学コミュニケーション及び一般市民の関与において相互学習を可能にすることを奨励する。

### 2. 研究セキュリティと研究インテグリティ対策による信頼ある科学研究の促進

私々は、開放性は基礎をなすもの、セキュリティは不可欠なもの、自由とインテグリティは極めて重要なものと考えている。G7は、世界的な研究セキュリティと研究インテグリティ並びにそれらの普及のための共通の価値観及び原則の重要性を再確認する。G7のグローバルな研究エコシステムにおけるセキュリティとインテグリティ(SIGRE)ワーキンググループは、研究セキュリティと研究インテグリティに関するG7共通の価値観と原則]及び「安全で開かれた研究のためのG7ベストプラクティス」文書と、オンラインのバーチャルアカデミーを既に作成しており、我々は、同ワーキンググループが、G7コミュニティの間で、将来のグローバルなアウトリーチを視野に入れて研究セキュリティと研究インテグリティのイニシアティブを促進するために行っている努力を引き続き支援する。我々は、同ワーキンググループが、オープンで、公正で、健全な国際協力を強化し、機微な研究開発を保護することに貢献したこと及び大きな成果をもたらしたことに感謝する。

我々は、不正な知識及び技術移転並びに研究及びイノベーションに対する外国からの干渉のリスクについて研究コミュニティの間で認識を高め、その結果、必要な際にはリスク低減措置を効果的に適用するために、より多くのことを実施すべきであることを認識する。

G7メンバーは、多国間及び二国間フォーラムにおいて、学術研究コミュニティ及び政府の代表者が集まり、研究インテグリティとセキュリティを取り巻く課題について議論し、進行中の活動の進捗を共有し、継続的な関与のための優先事項を含むロードマップの開発を検討するための定期的なイベント(例えば、ワークショップや議論)を引き続き奨励する。

G7は、安全保障と経済の交差領域において生じる諸問題にどのように対処するかという課題に直面している。我々は、複数の用途があり得る先端技術を倫理的かつ責任をもって適用しつつ、技術情報の保全を強化することを含め、外国の干渉からの研究開発の保護に関する効果的なプラクティスを共有する。

### 3. 地球規模課題を解決するための科学技術に関する国際協力

透明性があり、説明可能で、相互的な国際科学技術協力は、地球規模課題に対する革新的な解決策を見出す上で重要な役割を果たす。そのような課題には、気候変動、安全で安定した持続可能なエネルギー供給、生物多様性の損失、水危機、陸上及び水生生態系の破壊と枯渇、伝染性及び非伝染性の疾病、食料不安、世界的なサプライチェーンの混乱、洪水及び干ばつを含む大規模な自然災害が含まれる。

新興技術が国家を越えてもたらす圧力の高まりや地政学的影響を踏まえて、我々は、科学外交、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための国際協力を促進し、科学、政策、社会及びその革新を含めて分野横断的な視点を集めた実践的な解決策を推進することにコミットする。社会科学や人文科学、自然科学、医学、工学及び参加型の実践（例えば、シティズン・サイエンス）を含むがこれらに限定されないすべての分野を包含する学際的アプローチもまた、複雑な地球規模課題に対する新たな解決策を生み出すために不可欠である。

生物、物理系科学と経済学を結びつける科学イノベーションにより、公式統計の中で自然資本会計の測定や環境経済会計システム（SEEA）の実施を支援しなければならない。これらの課題に対処するためには、一次研究、発見、新技術が必要となる。

G7は、共通の価値に基づき、以下の分野でリーダーシップを発揮すべきである。

#### (1) 宇宙空間の安全かつ持続可能な利用の推進

宇宙空間は、科学研究、通信、災害対策と防災及び国家安全保障などの分野において、地球規模課題に対応し実質的な利益を提供する上で重要な役割を担っており、経済成長とイノベーションをもたらしている。しかしながら、宇宙活動の数と多様性が拡大し続けており、地球軌道上の衛星や宇宙デブリの数が急速に増加しているため、宇宙空間の安全で持続可能な利用を確保するために、緊急の対応が必要である。また、破壊的な直接上昇型ミサイルによる衛星破壊実験（DA-ASAT）の実施により、軌道上デブリの発生が加速し、すべての主体による平和的目的のための安全で持続可能な宇宙利用が危険にさらされている。

我々は、2021年のG7英国カービス・ベイ・サミットの共同コミュニケを想起し、宇宙空間の安全かつ持続可能な利用に対するコミットメントを改めて表明するとともに、軌道上デブリが喫緊の課題となっているとの認識を共有する。我々は、国連宇宙空間平和利用委員会（UNCOPUOS）で採択された国際ガイドラインの実施が喫緊で必要との認識を共有し、デブリ発生抑制とデブリ削減のための解決策の更なる開発の取組を強く奨励する。

我々は、これらの取組を進めるにあたって、UNCOPUOS、国際標準化機構（ISO）、国際宇宙機関間スペースデブリ調整委員会（IADC）といった国際機関を通じた全ての国との協力を引き続き重視する。

我々は、デブリ発生抑制を促進するため、以下の取組を行う。

- ・ UN COPUOS 宇宙デブリ発生抑制ガイドライン、宇宙活動の長期持続可能性（LTS）ガイドライン及び IADC 宇宙デブリ発生抑制ガイドラインに沿った行動を継続する。
- ・ UN COPUOS や IADC 等を通じて、各国の軌道上デブリ発生抑制策に関する経験及びベストプラクティスを共有する。
- ・ 適切な場合には、関連するフォーラムにおいて潜在的な新しいガイドラインを特定する取組を支援する。

我々は、宇宙空間の安全で持続可能な利用に更に貢献するため、宇宙状況把握（SSA）に関するベストプラクティスを共有する。

我々は、軌道上のデブリ発生抑制とデブリ削減に関する技術の更なる研究開発を強く奨励する。また、我々は、UNCOPUOS で作成されたガイドラインに沿ったデブリ削減に関する国内ガイドラインや規制枠組みの作成を強く奨励する。我々は、適切な国際機関等を通じた、透明性や責任あるデブリ削減の実践を奨励するよう国際協力を呼びかけ、この分野における将来の国際ガイドラインの作成を促進する。

我々は、天文学に必要な暗く静かな夜空を保護するため、UNCOPUOS、国際電気通信連合（ITU）及び国際天文学連合（IAU）の枠組みで、衛星ラージコンステレーションの天文学への影響について議論を継続することの重要性を認識する。

我々は、宇宙環境の長期的な持続可能性を維持するための重要なステップとして、国連総会決議 A/77/41 を再

確認し、破壊的な直接上昇型ミサイルによる衛星破壊実験（DA-ASAT）を実施しないとのG7メンバー各国が既に表明したコミットメントを改めて表明し、他国が後に続くよう促す。

#### (2) 気候変動や人為的ストレス要因を踏まえた海洋の機能のさらなる理解

地球規模の気候変動、汚染、違法・無報告・無規制（IUU）漁業を含む資源の乱獲などの人為的なストレス要因は、海洋に影響を及ぼし、人間社会に深刻な脅威をもたらしている。そのような脅威には、海面上昇、国土の消失、生物多様性の損失、頻発化・激甚化する気象災害、海洋酸性化、海洋温度上昇、海洋熱波、経済的損失及び世界の食料安全保障への影響などが含まれる。海洋は一続きであり相互に影響を及ぼしあっているため、空間的及び時間的データの欠落や海洋観測手法の欠如に対処するためには、国際協力が極めて重要である。これらのデータを理解し、証拠に基づいた行動を実現することが、変動する気候に対応し、海洋の健全性及び持続可能な利用を実現する上で不可欠である。

このため、G7は、海洋-気候-生物多様性の連関性についての理解強化と、全球海洋観測システムの維持及び強化の実現を目的とするG7海洋の未来に関するイニシアティブ（FSOI）ワーキンググループの取組を支持する。海洋を1つの地球システムとして包括的に理解し、監視し、予測するためには、両極域と深海をはじめとするデータ空白域において、物理的、生物地球化学的、生態学的な海洋特性の観測を強化し、それらの特性と社会経済システムとの相互作用にもさらなる注意を払うことが不可欠である。我々は、国際協力及び連携に基づき、研究調査船、アルゴフロート、係留系、衛星及びその他の海洋観測プラットフォームを利活用し、包括的な海洋観測を引き続き実施し、改善することにコミットする。さらに、海洋のデジタルツインの開発を着実に進めることにより、観測とモデリングの両方の利用を向上する必要がある。これにより、実用的で付加価値の高いモニタリング及び予測情報を共有できる。

G7は、北極及び南極の両極域が気候変動によって顕著な影響を受けていることを認識している。極域研究は、この緊急の気候問題に対処する上で、ますます重要な役割を果たしている。G7は、極域研究分野における国際協

力を支持する。北極域研究船や南極域研究船などの国際的な観測プラットフォームを使った、技術開発の成果活用、各種データの共有、人材育成や能力開発によって、観測を強化することができる。北極域研究は、先住民との連携及び協力の下、信頼、尊重、相互利益に基づく長期的な研究関係を通じ、実施されなければならない。

G7は、持続可能な開発のための国連海洋科学の10年（2021-2030）の実施を引き続き支援する。また、我々は、G7が科学を政策と結び付け、知識を行動につなげ、海洋の課題に対する科学に基づく革新的な解決策を立案及び実行に移し、持続可能な海洋生態系及びブルーエコノミーを実現できるよう、FSOIワーキンググループに対し、G7海洋の10年ナビゲーション・プラン」や「G7オーシャン・ディール」等の政策文書に基づき、具体的な戦略を策定することを促す。

#### (3) 研究インフラやその成果のグローバルな活用の促進

研究インフラは、その任務を設定させるに当たり、責任ある科学技術協力を支援し、グローバル・レベルで及ぶ個々の国によって効率的に利用されるための関連する選択肢を考慮すべきである。

特に、シンクロトロン放射光施設のような非常に大規模な研究インフラは、最先端の研究、高度な人材の育成、データやサービスの利用、地域社会の発展への貢献を通じて、国際的な研究コミュニティ全体の科学者、技術者、その他の専門家、公的、民間部門及びイノベーターに対して、社会経済的影響を高める機会を提供することを目指すべきである。

研究インフラは、データのアクセス性と共有を促進する方法として、デジタル移行を優先することができる。研究インフラは、高度な科学的手段を通じて生成されたビッグデータを管理し、信頼性があり、倫理的で、安全で、相互的で、透明性のある方法で、データを世界的にアクセス可能かつ共有可能にする手段を提供する。物理的機能とデジタル的機能を相互に接続することは、新しい研究開発の方法論だけでなく、経済にも影響力のあるイノベーションをもたらすことができる。デジタル化が成功すれば、より多くの研究者やコミュニティが、計算資源、高品質なデータ、教育ツール、ユーザサポートにアクセスできる。

我々は、研究インフラの物理的及びデジタル的機能を

十分に強化することによる研究開発システムの革新に関して、国際研究インフラに関する高級実務者会合（GSO）での議論を期待する。これらの議論は、オープン・サイエンス、研究セキュリティと研究インテグリティというG7が共有する価値観を考慮に入れるべきであり、研究インフラへの国際的アクセスのためのGSOフレームワーク基準のような適切な国際的アクセスの枠組みに反映すべきである。したがって、我々は、研究インフラの利用から生じる研究成果及びプロトコルに対するオープン・サイエンス及びFAIR原則の実施を促進するために、GSOとG7オープン・サイエンスワーキンググループとの間の調整及び交流を奨励する。

**(4) 国際的な人材の移動及び循環の促進**

研究コミュニティは、地球規模課題に効果的に取り組むため、研究環境の多様性を改善するためのスキルと知識を開発すべきである。同時に、例えば、グローバルなイノベーション・エコシステムを強化するため、世界レベルの研究者間の協力を促進することにより、G7と連携国との間の連結性を高めるべきである。

G7は、国際的な人材の移動及び循環、特に若手研究者が価値観を共有する他のパートナー国との国際協力や共同研究に取り組むことを奨励する。私々は、国内の法令に従い、科学研究における自由を尊重する。また、我々は、国内の研究開発の強みを強化するのに役立つ国際的な研究協力及び移動に対する障壁を特定し、それを最小化するために協力する。

気候変動、食料不安、グローバルな健康への脅威などの地球規模課題に対処するためのイノベーションと密接に関連する生命科学の分野では、1987年のベネチア・サミットにおいて、当時の中曽根康弘内閣総理大臣の主導によりG7が設立した国際研究支援プログラムであるヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP）が、最先端の国際共同研究や人材育成を推進し、大きな成果を上げている。G7メンバー及び我々の価値観を共有するHFSP参加国は、この先駆的なイニシアティブを継続する。我々は、ウクライナの研究者に対するHFSPの支援を歓迎する。

(了)

**開催までの歩み・開催後の活動**

年	月 日	項目
2021 (R3)	10月 1日	2023年G7開催についての本通知が外務省より発出
	11月 9日	市長が定例会見にてG7関係閣僚会議の誘致を表明
	12月 7日	林外務大臣へ要望
	12月17日	外務省へ2023年日本開催の主要国首脳会議関係閣僚会合誘致申請書提出
	12月20日	2023年G7関係閣僚会合 仙台誘致推進協議会 設立
2022 (R4)	1月14日	内閣府小林担当大臣、自民党西村筆頭副幹事長、環境省中川政務官へ要望
	3月 4日	自民党茂木幹事長、内閣官房松野長官、木原副長官へ要望
	3月12日	岸田首相へ要望活動
	3月26日	公明党山口代表へ要望
	5月24日	2023サミットを広島県広島市にて開催する旨、岸田首相が日米首脳会見で発表
	7月15日	サミットを広島で開催する旨、閣議決定。官房長官会見で発表
	9月16日	関係閣僚会合の開催地について閣議決定。2023科学技術大臣会合を仙台市にて開催する旨、官房長官が閣議後会見で発表
	9月22日	仙台市文化観光局内にG7科学技術大臣推進室設置（5名体制）
	10月 1日	仙台市推進室2名増員（7名体制）
	10月17日	第1回 G7仙台科学技術大臣会合推進本部会議
	10月23日	まつりだ秋保2022に出展
	10月25日	G7仙台科学技術大臣会合を2023年5月12日から14日に開催する旨、高市内閣府特命担当大臣（科学技術政策）が発表
	10月28日	内閣府科学技術・イノベーション事務局による現地視察
	10月28日	2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会 設立総会・第1回委員会
	11月 1日	仙台市推進室3名増員（10名体制）
	11月 2日	宮城県警察本部内にサミット警備対策室 設置
	11月 3日	青葉区民まつりに出展
	11月15日	G7仙台科学技術大臣会合を仙台市秋保地区で開催する旨、内閣府より発表
	11月22日～12月9日	市役所本庁舎に秋保開催決定の吊看板掲出
	12月 1日	2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会 第2回委員会（書面開催）
12月 1日	仙台市推進室1名増員（11名体制）	
12月1日～2023年5月14日	G7仙台科学技術大臣会合巡回パネル展示	
12月22日	第1回 警備・交通・ライフライン関係機関連絡会	
2023 (R5)	1月27日	推進協ホームページ日本語版及びSNS(Twitter・Instagram)開設
	1月27日	仙台・未来創造フォーラム（首都圏シティプロモーション）に出展
	1月28日	秋保地区地域活動のつどいに出展
	1月30日	第2回 G7仙台科学技術大臣会合推進本部会議

年	月 日	項 目
2023 (R5)	1月31日	開催100日前記念シンポジウム
	2月 1日	カウントダウンボード掲出開始 (100日前)
	2月 2日	2月合同校長会で子ども関連事業への協力を依頼
	2月14日	2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会 第3回委員会 (内閣府より会議日程及び会場について発表)
	3月1日・4日	秋保地区関係団体向け説明会
	3月15日	JR仙台駅のモニターにG7のモーショングラフィックス掲出
	3月21日・26日	語学ボランティア研修
	3月30日	仙台駅前ガス灯、青葉通り、定禅寺通りフラッグ掲出
	4月 3日	AER・太白区役所懸垂幕掲出
	4月 8日	秋保地元住民向け説明会
	4月10日	第3回 G7仙台科学技術大臣会合推進本部会議
	4月12日	秋保地区旅館向けインバウンドおもてなし研修
	4月13日	本庁舎吊看板掲出
	4月13日	秋保地区装飾 (フラッグ、のぼり、横断幕) 開始
	4月13日	東北大学青葉山キャンパスフラッグ掲出
	4月13日	まちくるビジョン・NTTサイネージ・仙台空港国内線出口上部デジタルサイネージにモーショングラフィックス掲出
	4月14日	4月合同校長会で子ども関連事業に関する資料を提出
	4月15日	仙台駅2階南側階段アーチ・東口ペDESTリアンデッキフロアシート掲出開始
	4月16日	QuizKnockトークライブ (中高生向け開催1か月前記念イベント)
	4月16日	G7仙台科学技術大臣会合機運醸成セミナー「古きを学び、新しきを考える」
	4月17日	2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会 第4回委員会
	4月23日	秋保地区花壇整備実施
	4月23日	語学ボランティア結団式
	4月28日	宮城県警・仙台市合同テロ災害対応実働訓練
	5月 8日	仙台空港にポスター、横断幕等を掲出
	5月12日～14日	<b>G7仙台科学技術大臣会合 開催</b>
	5月31日	宮城県警察本部サミット警備対策室 廃止
	7月 1日	仙台市文化観光局G7科学技術大臣会合推進室 廃止 推進協事務局、仙台市文化観光局誘客戦略推進課へ移管
	11月13日	2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会 第5回委員会

## 効果測定の結果

### 効果測定の趣旨

G7仙台科学技術大臣会合の開催効果(経済波及効果およびパブリシティ効果)を把握し、今後の国際コンベンション誘致等に係る参考資料として活用するため、七十セリサーチ&コンサルティング株式会社に委託し取りまとめました。

### 経済波及効果の推計

#### ■経済波及効果 約3億4,000万円

会合および関連事業開催に伴う事業費、会合参加者等の消費額、会合開催に伴う設備投資に、観光庁や宮城県が公表する観光関連統計などを活用し、経済波及効果を算出しました。

(単位：万円)

	計			
	(①+②+③)	①会合開催関連事業費	②会合参加者消費額	③会合開催に伴う設備投資
A. 直接効果	22,900	16,800	1,000	5,100
B. 1次間接波及効果(注1)	6,800	5,100	300	1,400
C. 2次間接波及効果(注2)	4,300	3,100	200	1,000
経済波及効果(A+B+C)	34,000	25,000	1,500	7,500

(注1) 1次間接波及効果：直接効果に伴う原材料等の購入によって誘発される生産による効果を計算したもの

(注2) 2次間接波及効果：直接効果と1次間接波及効果により発生した雇用者所得により新たに誘発される効果を計算したもの

### パブリシティ効果の推計

#### ■パブリシティ効果 約12億6,000万円

##### (1) 国内メディアの露出調査・広告換算

2023年5月5日～同月24日の20日間における首都圏(東京)での「仙台」「G7」「サミット」に関するテレビ、新聞(中央紙、業界紙、地方紙)、雑誌、Webニュースの露出調査を実施し、広告費に換算しました。

	番組 / 記事数	広告換算額 (円)
テレビ	6	97,157,000
新聞・雑誌	164	167,765,774
Web ニュース	260	72,529,791
合計		337,452,565

##### (2) 海外記事露出調査・広告換算

2023年5月5日～同月24日の20日間における海外での報道のうち、英語を母国語とするアメリカ・イギリス・カナダにおける露出調査を実施し広告費に換算しました。

	番組 / 記事数	広告換算額 (円)
アメリカ	395	793,868,976
イギリス	33	126,432,135
カナダ	6	2,229,230
合計		922,530,341

抽出キーワード:「Sendai」および「G7」、「Sendai」、「Akiu」

### まとめ・2016 G7仙台財務大臣・中央準備銀行総裁会議との比較

	G7 仙台科学技術大臣会合	G7 仙台財務大臣・中央準備銀行総裁会議
経済波及効果	約3億4,000万円	約5億1,500万円
パブリシティ効果	約12億6,000万円	約25億1,600万円

●経済波及効果については、2016年に開催されたG7仙台財務大臣・中央準備銀行総裁会議(以下「前回会合」という。)のときの約3分の2となったが、報道関係者を含めた会合参加者数について、前回会合時は約1,000人だったところ、今回は約220人と約5分の1であったことを踏まえると、効果的な開催であったものと考えられる。

●パブリシティ効果についても、前述のとおり報道関係者を含めた会合参加者が少なくなったことが影響し、特に首都圏でのテレビでの露出が少なかったことにより、前回会合より減少する結果となった。

## 2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会規約

<p>(名称)</p> <p>第1条 本会は、2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会(以下「委員会」という。)と称する。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 委員会は、G7仙台科学技術大臣会合(以下「科学技術大臣会合」という。)の成功に向け、地元関係機関が連携し、科学技術大臣会合の準備・開催支援、地元歓迎機運の醸成、仙台・東北地域の魅力発信に係る協力を行うことを目的とする。</p> <p>(所掌)</p> <p>第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を所掌する。</p> <p>(1) 科学技術大臣会合の開催に対する支援、円滑な運営に係る協力に関すること</p> <p>(2) 科学技術大臣会合の地元開催機運の醸成に関すること</p> <p>(3) 科学技術大臣会合の歓迎事業の企画、運営、仙台・東北地域の魅力発信に関すること</p> <p>(4) 科学技術大臣会合の円滑な運営を図るための関係団体及び機関との連絡調整等に関すること</p> <p>(5) その他、委員会の目的を達成するために必要なこと</p> <p>(組織)</p> <p>第4条 委員会は、別表第1に掲げる団体をもって構成し、別表第2に掲げる役職にあるものを委員とする。</p> <p>2 委員会は、その議決により、委員会を構成する団体を新たに加えることができる。</p> <p>3 委員が別表第2に掲げる役職を離れたときは、その役職の後任者が委員となる。</p> <p>4 委員の任期は、委員会が設置された日から委員会が解散する日までとする。</p> <p>(役員)</p> <p>第5条 委員会に次の役員を置く。</p> <p>(1) 会長 1名</p>	<p>(2) 副会長 若干名</p> <p>2 会長は、仙台市長をもって充てる。</p> <p>3 副会長は、委員のうちから委員会の同意を得て会長が指名する。</p> <p>(役員の職務)</p> <p>第6条 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。</p> <p>2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。</p> <p>(監事)</p> <p>第7条 委員会に監事2名を置く。</p> <p>2 監事は、1名は委員のうちから、他の1名は委員以外のものから、委員会の同意を得て会長が選任する。</p> <p>3 監事は、委員会の会計を監査し、必要があるときは委員会に出席し、会長に意見を述べることができる。</p> <p>4 監事の任期は、選任の日から委員会が解散する日までとする。</p> <p>(顧問)</p> <p>第8条 委員会に顧問を置く。</p> <p>2 顧問は、宮城県知事をもって充てる。</p> <p>3 顧問は、委員会に出席し、意見を述べ、また助言を行う。</p> <p>4 顧問の任期は、委員会が解散する日までとする。</p> <p>(参与)</p> <p>第9条 委員会に参与を置くことができる。</p> <p>2 参与は、会長が選任する。</p> <p>3 参与は、委員会に出席し、意見を述べることができる。</p> <p>4 参与が委員会に出席できないときは、参与が指名する代理のものを出席させることを妨げない。</p> <p>5 参与の任期は、委員会が解散する日までとする。</p>
--	---

(会議)

第10条 委員会の会議は、必要に応じて会長が召集し、その議長となる。

2 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議し、決定する。

(1) 予算を定めること

(2) 決算を認定すること

(3) 事業計画を定めること

(4) 規約の制定及び改廃に関すること

(5) 上記に掲げるもののほか、委員会の運営に伴う重要な事項に関すること

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 委員は、会議に出席できないときは、代理のものを会議に出席させることができる。

5 会議における議決は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決するところによる。

6 会長は、必要がある場合には、会議に委員、顧問及び参与以外のものを出席させ、意見を求めることができる。

7 第3項の規定にかかわらず、第4条第2項の規定による団体の追加その他会長が特に必要があると認めた議事については、書面により議決することができる。この場合において、当該議事は、委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(部会)

第11条 会長が必要と認めるときは、委員会に部会を置くことができる。

2 部会は、委員会において部会が検討すべきとされた事項について調査検討し、その結果を委員会に報告するものとする。

3 部会についての必要な事項は、会長が別に定める。

(専決処分)

第12条 会長は、委員会を招集する暇がないときは、その議決すべき事項について、専決処分することができる。

2 会長は、前項の規定により専決処分したときは、これを次の委員会に報告し、その承認を求めなければならない。

(財務)

第13条 委員会の経費は、仙台市からの負担金及びその他の収入をもって充てる。

2 委員会の予算は、委員会の議決により定める。

3 会長は、出納に関する事務を終了したときは、速やかに決算を調製し、監事の監査を経て委員会の認定を受けなければならない。

4 委員会の会計は、当初予算の成立の日に始まり、決算報告の承認の日をもって終了する。

5 委員会の会計に関して必要な事項は会長が別に定める。

(事務局)

第14条 委員会の事務を処理するため、仙台市文化観光局内に事務局を置く。

2 事務局に関して必要な事項は、会長が定める。

(解散)

第15条 委員会は、第2条の目的を達成した後に、会長が解散を通知する。

(委任)

第16条 この規約に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規約は、令和4年10月28日から実施する。

附 則(令和4年12月1日改正)

この改正は、令和4年12月1日から実施する。

■別表第1（構成団体）

団体名
仙台市
宮城県
国立大学法人東北大学
宮城県警察本部
第二管区海上保安本部
宮城県市長会
一般社団法人東北経済連合会
仙台商工会議所
一般社団法人仙台経済同友会
株式会社河北新報社
東日本旅客鉄道株式会社 東北本部
仙台国際空港株式会社
一般社団法人東北観光推進機構
仙台ホテル総支配人協議会
宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合
公益財団法人仙台観光国際協会
秋保温泉旅館組合
みやぎ仙台商工会
秋保地区町内会長会
湯元地区連合町内会

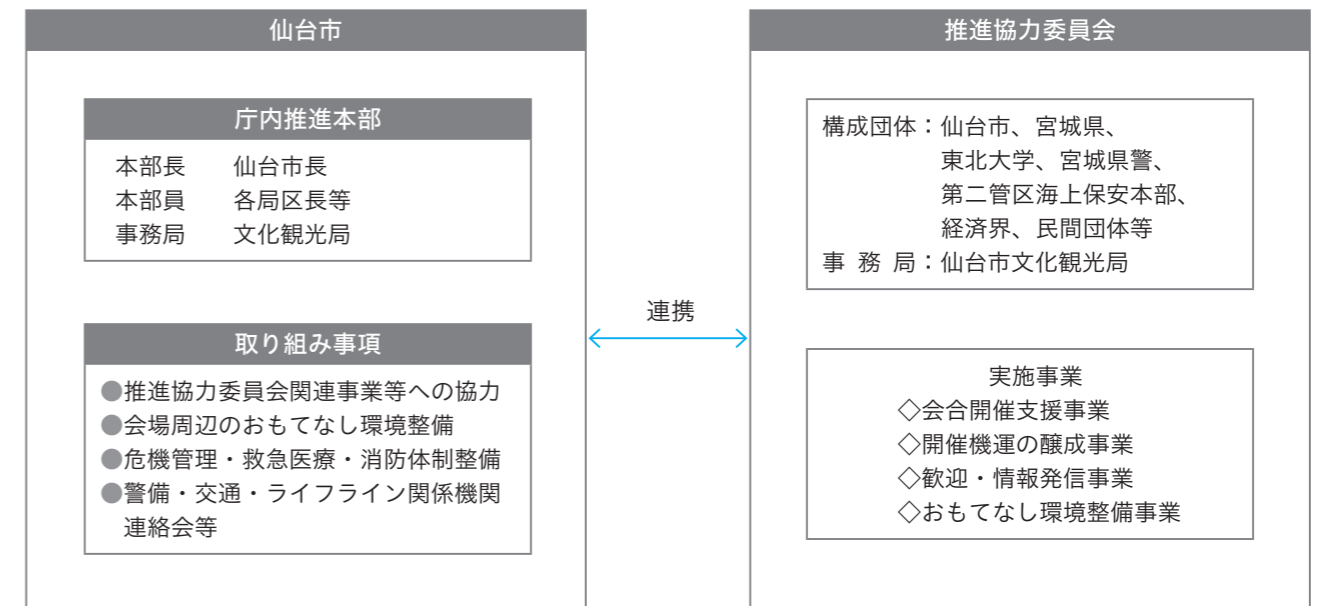
■別表第2（委員）

団体名	役職
仙台市	市長
宮城県	経済商工観光部長
国立大学法人東北大学	総長
宮城県警察本部	本部長
第二管区海上保安本部	本部長
宮城県市長会	会長
一般社団法人東北経済連合会	会長
仙台商工会議所	会頭
一般社団法人仙台経済同友会	代表幹事
株式会社河北新報社	代表取締役社長
東日本旅客鉄道株式会社 東北本部	本部長
仙台国際空港株式会社	代表取締役
一般社団法人東北観光推進機構	理事長
仙台ホテル総支配人協議会	会長
宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合	理事長
公益財団法人仙台観光国際協会	理事長
秋保温泉旅館組合	組合長
みやぎ仙台商工会	会長
秋保地区町内会長会	会長
湯元地区連合町内会	会長

## 庁内推進本部会議

### G7仙台科学技術大臣会合推進本部

G7広島サミットの関係閣僚会合の一つである科学技術大臣会合の成功に向け、仙台市の全庁を挙げて開催準備を進めるために設置しました。



### ■G7仙台科学技術大臣会合推進本部設置要綱

(設置)

第1条 本市で開催される科学技術大臣会合の開催準備を総合的に推進するため、G7仙台科学技術大臣会合推進本部(以下「推進本部」という。)を設置する。

(所掌事務)

- 第2条 推進本部は、次に掲げる事務を行う。
- (1) 科学技術大臣会合の円滑な実施を図るための総合調整に関すること
  - (2) 科学技術大臣会合の受入体制整備に係る連絡調整に関すること
  - (3) その他科学技術大臣会合の推進に必要な事項に関すること

(組織)

第3条 推進本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織する。

- 2 本部長は、市長をもって充てる。
- 3 副本部長は、副市長をもって充てる。
- 4 本部員は、別記に掲げる職にある者をもって充てる。

(職務)

- 第4条 本部長は、推進本部の事務を総括する。
- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるとき又は本部長が欠けたときは、あらかじめ本部長の指名する副本部長が、その職務を代理する。
  - 3 本部員は、本部長の命を受け、推進本部の事務に従事する。

(会議)

- 第5条 本部長は、推進本部の会議を招集し、その議長となる。
- 2 本部員が推進本部の会議に出席することができないときは、当該本部員の属する部局の職員が代理して出席することができる。

3 本部長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(部会)

第6条 本部長が必要と認めるときは、推進本部に部会を置くことができる。

2 部会は、科学技術大臣会合の開催に係る特定の事項について調査検討し、その結果を推進本部に報告するものとする。

3 部会の構成員は、関係する部局の職員のうちから本部長が指名する。

4 部会に部会長を置き、本部員のうちから本部長が指名する。

(庶務)

第7条 推進本部の庶務は、文化観光局G7科学技術大臣会合推進室において処理する。

(解散)

第8条 推進本部は、令和5年5月末日に解散するものとする。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進本部の運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年10月4日から実施する。  
この改正は、令和5年4月1日から実施する。

別記(第3条関係)

危機管理局长 総務局长 まちづくり政策局长  
 財政局長 市民局长 健康福祉局长  
 こども若者局长 環境局长 経済局长 文化観光局长  
 都市整備局长 建設局长 青葉区长 宮城野区长  
 若林区長 太白区长 泉区长 会計管理者  
 消防局长 教育長 水道事業管理者 交通事業管理者  
 ガス事業管理者 病院事業管理者

庁内で行った取り組み、推進協共催・後援事業一覧

日程	名称	会場	主催
2022年10月26日～10月27日	既存放射光施設による活用事例創出の取り組み 仙台市トライアルユース事例報告会	オンライン開催	仙台市経済局
2022年11月2日～11月30日	ユースチャレンジ! コラボプロジェクト (若者版・市民協働事業提案制度) 募集	-	仙台市市民局
2022年11月22日	放射光で広がる未来のモノづくり～『共創』で輝く光イノベーション都市・仙台～	オンライン開催	仙台市経済局
2023年2月10日	防災×テクノロジー 官民連携プラットフォーム 第6回マッチングセミナー	仙台サンプラザ	仙台市経済局 (第2部内閣府)
2023年3月21日	仙台高専まるごとフェア in 科学館	スリーエム仙台市科学館	仙台市科学館
2023年4月5日～5月10日	仙台第一高等学校課題研究ポスター展	スリーエム仙台市科学館	仙台市科学館
2023年5月28日	令和5年度SSH わくわくサイエンス 仙台第三高等学校科学実験教室	スリーエム仙台市科学館	仙台市科学館

2023 G7広島サミット関係閣僚会合

開催時期	会合名	開催地
4月15日(土)～4月16日(日)	気候・エネルギー・環境大臣会合	北海道・札幌市
4月16日(日)～4月18日(火)	外務大臣会合	長野県・軽井沢町
4月22日(土)～4月23日(日)	農業大臣会合	宮城県・宮崎市
4月22日(土)～4月23日(日)	労働雇用大臣会合	岡山県・倉敷市
4月29日(土)～4月30日(日)	デジタル・技術大臣会合	群馬県・高崎市
5月11日(木)～5月13日(土)	財務大臣・中央銀行総裁会議	新潟県・新潟市
<b>5月12日(金)～5月14日(日)</b>	<b>科学技術大臣会合</b>	<b>仙台市秋保地区</b>
5月12日(金)～5月15日(月)	教育大臣会合	富山県・石川県 (共催)
5月13日(土)～5月14日(日)	保健大臣会合	長崎県・長崎市
5月19日(金)～5月21日(日)	首脳会合 (サミット)	広島県・広島市
6月16日(金)～6月18日(日)	交通大臣会合	三重県・志摩市
6月24日(土)～6月25日(日)	男女共同参画・女性活躍担当大臣会合	栃木県・日光市
7月7日(金)	司法大臣会合	東京都
7月7日(金)～7月9日(日)	都市大臣会合	香川県・高松市
10月28日(土)～10月29日(日)	貿易大臣会合	大阪府・堺市
12月8日(金)～12月10日(日) (予定)	内務・安全担当大臣会合	茨城県・水戸市



---

## 2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会 活動報告書

2023(令和5)年11月発行

---

【編集・発行】 2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会

【事務局】 〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7-1

仙台市文化観光局観光交流部誘客戦略推進課

本文中に記載されている団体名および個人の所属・肩書等は当時のものです。